

7.12 陸域動物

7.12.1 調査

(1) 調査方法

1) 調査項目

陸域動物の調査項目を表 7.12.1-1 に示す。

表 7.12.1-1 陸域動物の調査項目

調査項目		文献その他の 資料調査	現地調査
動物相の状況	哺乳類	○	○
	鳥類	○	○
	爬虫類	○	○
	両生類	○	○
	昆虫類	○	○
	陸生甲殻類	○	○
	陸産貝類	○	○
重要な動物種の分布 及び生息状況	動物相の項目 と同一	○	○
指定外来種の状況	上記の項目と 同一	○	○

2) 調査地域

調査地域は、事業実施区域及び周辺 250m の範囲とした。

3) 調査方法

① 動物相の状況

a. 文献その他の資料調査

調査地域及びその周辺に生息する陸域動物の記録がある文献・資料を収集し、それらに掲載されている記録種について整理した。

b. 現地調査

(a) 哺乳類

a) 調査期間

現地調査期間を表 7.12.1-2 に示す。

哺乳類の繁殖期や活動が活発になる時期を考慮し、調査期間は春季と秋季の2季とした。

表7.12.1-2 現地調査期間

調査項目	調査期間	
哺乳類	春季	令和2年3月 4日 9時～22時
		3月 5日 9時～22時
		3月16日 9時～10時
	秋季	令和2年10月21日 9時～22時
		10月22日 9時～22時
		11月 4日 9時～10時

b) 調査位置

現地調査地点の設定方法を表 7.12.1-3 に示し、現地調査位置を図 7.12.1-1 に示す。

表7.12.1-3 現地調査地点

調査項目	調査地点	設定数
哺乳類	目撃法 調査地域の様々な環境を網羅的に踏査した。	—
	無人撮影法 地点1は事業実施区域の西に位置する中央卸売市場の塀沿いの植栽帯、地点2は春季には事業実施区域直近の土砂置き場のコンクリート塀沿いの草地、秋季には事業実施区域内の野球場フェンス沿いに設定した。 なお、地点2は春季調査で確認が想定される重要な哺乳類が全て確認されたことから重複を避けるため、秋季調査では地点を変更して実施した。	2地点
	トラップ法 範囲1は事業実施区域の西に位置する中央卸売市場の林縁及び草地、範囲2は事業実施区域内のゴミ集積所、作業小屋周辺、草地、に設定した。	2範囲

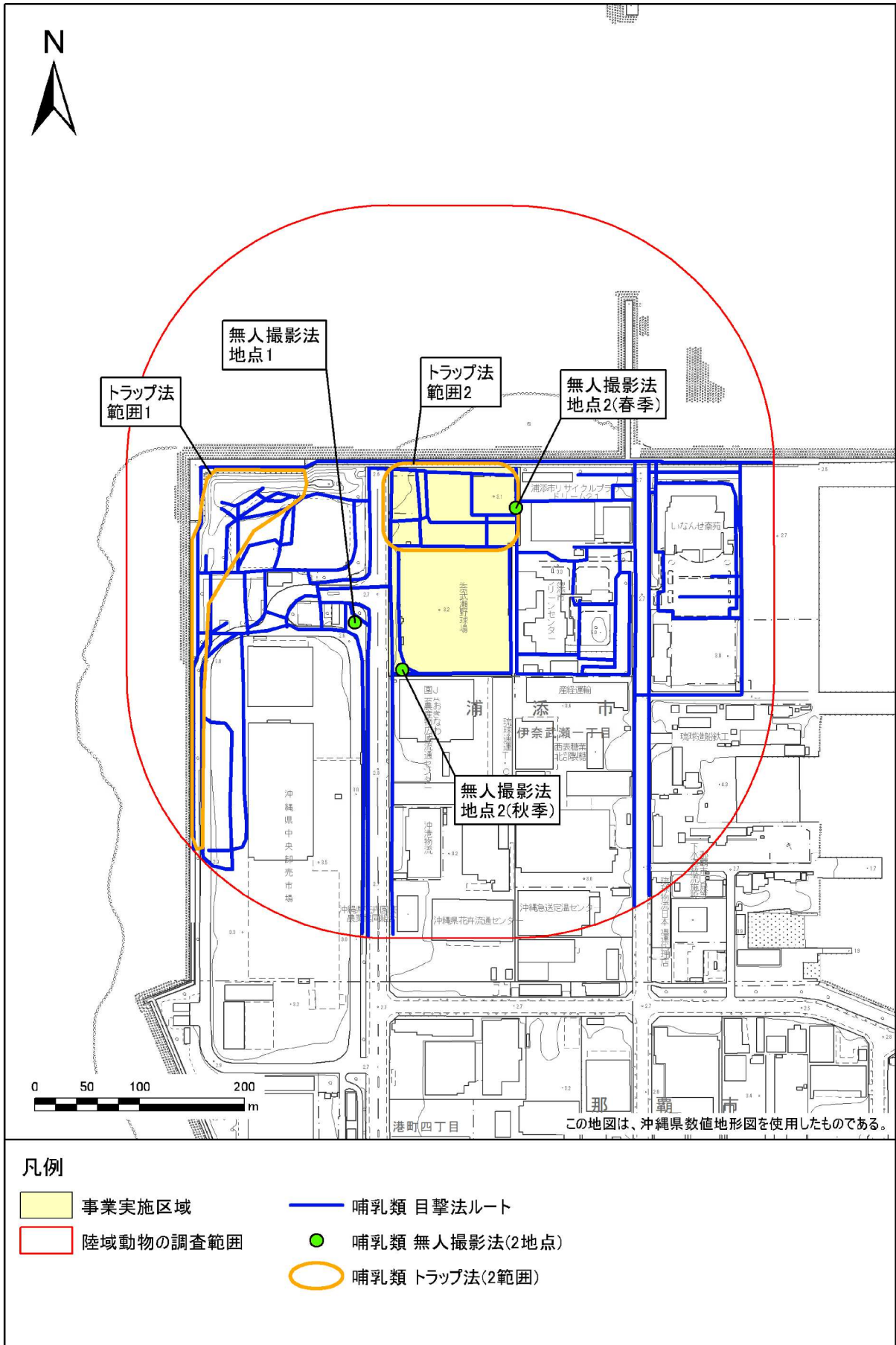


図 7. 12. 1-1 哺乳類の現地調査位置

c) 調査方法

現地調査方法を表 7. 12. 1-4(1)～(2)に示す。

表7. 12. 1-4(1) 現地調査方法

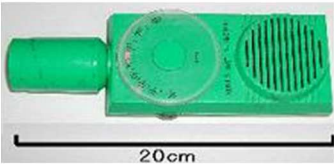

調査項目	調査方法	調査時間
	<p>目撃法 個体の目撃・鳴き声・痕跡(糞・足跡・食痕・死体)により、種類を識別し、種名を記録した。夜間踏査時にはバットディテクターを携行し、小型コウモリ類の生息確認も併せて実施した。バットディテクターの詳細を下図に示す。</p> <div data-bbox="497 651 1070 1025" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>バットディテクター 小型コウモリ類の発する超音波を人の可聴音域に変換する装置で、小型コウモリ類の生息を確認できる。超音波の周波数とパターンにより、小型コウモリ類の種の同定に役立つ。</p> </div>	
哺乳類	<p>無人撮影法 ネズミ類の通り道となりそうな2地点に、誘引餌と無人撮影カメラを各1台設置し、約10日後に回収した。誘引餌には、魚肉ソーセージ及び殻付きピーナッツを併用した。無人撮影カメラの詳細を下図に示す。</p> <div data-bbox="497 1249 1070 1720" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>無人撮影カメラ 赤外線センサー内蔵型の自動撮影カメラ。赤外線センサーが動物の体温を検知すると、カメラに信号が送信され、写真が撮影される。</p> </div>	日中及び夜間

表7.12.1-4(2) 現地調査方法

調査項目	調査方法	調査時間
<p>哺乳類 (続き)</p>	<p>トラップ法 ネズミ類の通り道となりそうな2範囲に、誘引餌を入れた生け捕り式罠(シャーマントラップ)を各25個設置し、翌日回収した。誘引餌には、魚肉ソーセージ及び殻付きピーナッツを併用した。シャーマントラップの詳細を下図に示す。</p> <div data-bbox="475 510 1043 958" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;">シャーマントラップ</p> <p>アルミ製の生捕り式罠で、餌に誘引された哺乳類などの動物が中に入ると入口が閉まり捕獲される。</p> </div>	<p>夕方から翌朝</p>

(b) 鳥類

a) 調査期間

現地調査期間を表 7. 12. 1-5 に示す。

鳥類の渡りの時期や繁殖期、越冬季を考慮し、調査期間は 4 季とした。

表7. 12. 1-5 現地調査期間

調査項目	調査期間	
鳥類	冬季	令和2年1月 8日 7時～12時、17時～19時 1月27日 7時～11時、14時～16時
	春季	令和2年4月15日 6時～12時、18時～21時 5月21日 5時～13時
	夏季	令和2年7月21日 5時～9時、12時～14時、20時～21時
	秋季	令和2年10月19日 6時～9時、14時～17時、20時～21時 11月17日 6時～10時、14時～15時

b) 調査位置

現地調査地点の設定方法を表 7. 12. 1-6 に示し、現地調査位置を図 7. 12. 1-2 に示す。

表7. 12. 1-6 現地調査地点

調査項目	調査地点	設定数
鳥類	目撃法 下記2つの調査法で観察できない場所などを中心に、 様々な環境を網羅的に踏査した。	—
	ラインセンサス法 街路樹や建物周辺の林に生息する種を考慮し、調査 範囲の中央部を囲む道路上に設定した。	1ルート
	定点センサス法 干潟や海岸に生息する種を考慮し、調査範囲北側の 堤防上、並びに、開けた草地・裸地に生息する種を考 慮し、事業実施区域内の野球場に設定した。	海域：1地点 陸域：1地点

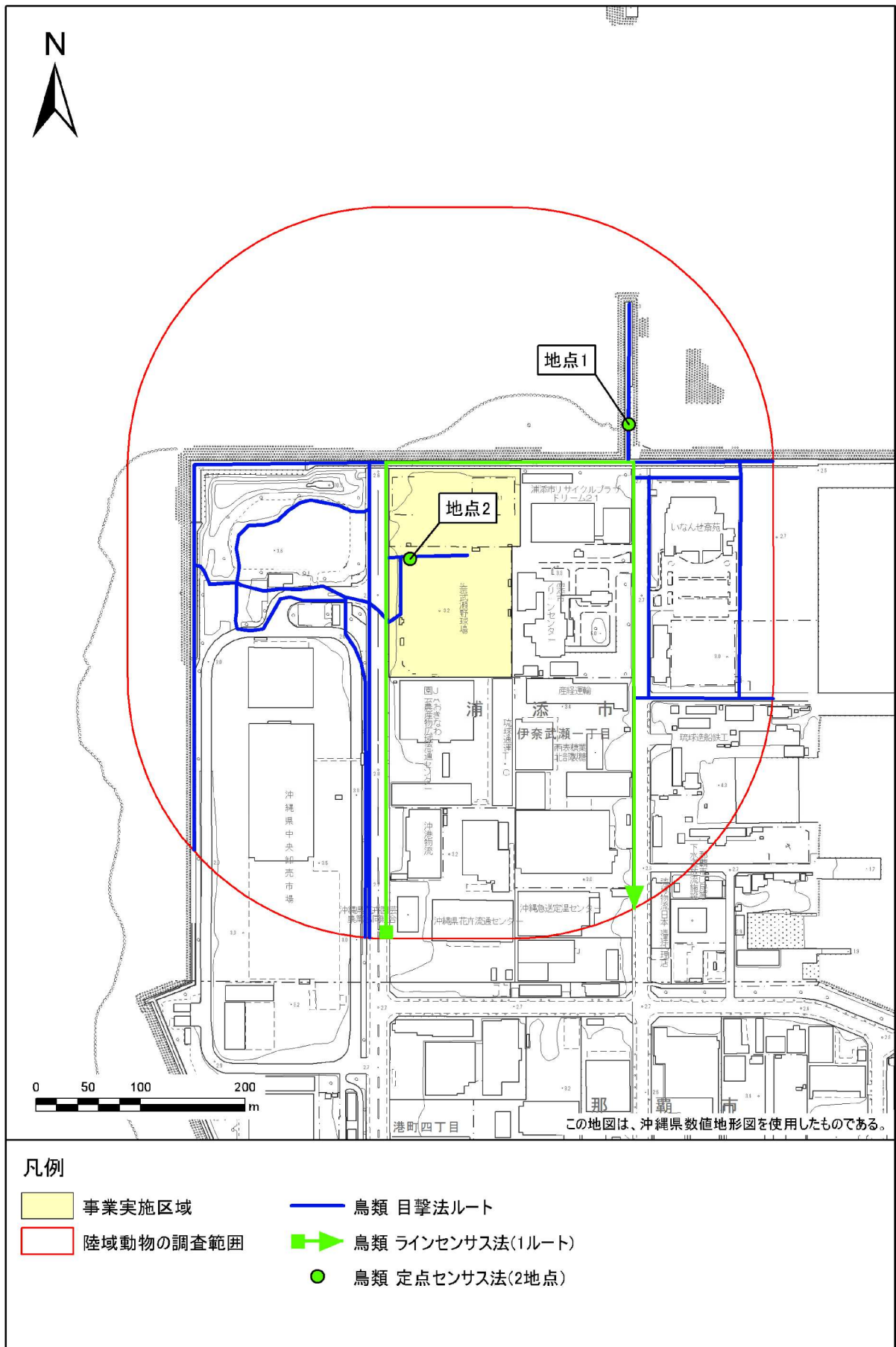


図7.12.1-2 鳥類の現地調査位置

c) 調査方法

現地調査方法を表 7. 12. 1-7 に示す。

表7. 12. 1-7 現地調査方法

調査項目	調査方法	調査時間
鳥類	<p>目撃法 双眼鏡又は望遠鏡を用いた個体の目視や鳴き声の聴き取りによって、種類を識別し、種名を記録した。また、夜行性の種を考慮し、夜間にも踏査を実施した。</p>	午前中及び夜間
	<p>ラインセンサス法 予め設定したルートを時速1km程度で歩き、ルートの左右幅25m以内に出現したすべての鳥類について、双眼鏡を用いた目視や鳴き声の聴き取りによって、種類を識別し、種名・個体数・確認状況を記録した。</p>	早朝(日の出時刻から1時間程度)
	<p>定点センサス法 予め設定した地点に30分間留まり、地点から識別できる範囲に出現したすべての鳥類について、双眼鏡又は望遠鏡を用いた目視や鳴き声の聴き取りによって、種類を識別し、種名・個体数・確認状況を記録した。</p>	海域：満潮及び干潮時 陸域：午前中

(c) 爬虫類

a) 調査期間

現地調査期間を表 7. 12. 1-8 に示す。

爬虫類の繁殖期や活動が活発になる温暖な時期のうち、夏季の乾燥による爬虫類の活動低下を考慮し、調査期間は春季と秋季の 2 季とした。

表7. 12. 1-8 現地調査期間

調査項目	調査期間	
爬虫類	春季	令和2年3月 4日 9時～22時 3月 5日 9時～22時
	秋季	令和2年10月21日 9時～22時 10月22日 9時～22時

b) 調査位置

現地調査位置の設定方法を表 7. 12. 1-9 に示し、現地調査位置を図 7. 12. 1-3 に示す。

表7. 12. 1-9 現地調査位置

調査項目	調査位置	設定数
爬虫類	目撃法 調査地域の様々な環境を網羅的に踏査した。	—

c) 調査方法

現地調査方法を表 7. 12. 1-10 に示す。

表7. 12. 1-10 現地調査方法

調査項目	調査方法	調査時間
爬虫類	目撃法 個体の目撃・鳴き声・痕跡(脱皮殻・卵殻・死体)により、 種類を識別し、種名を記録した。	日中及び夜間

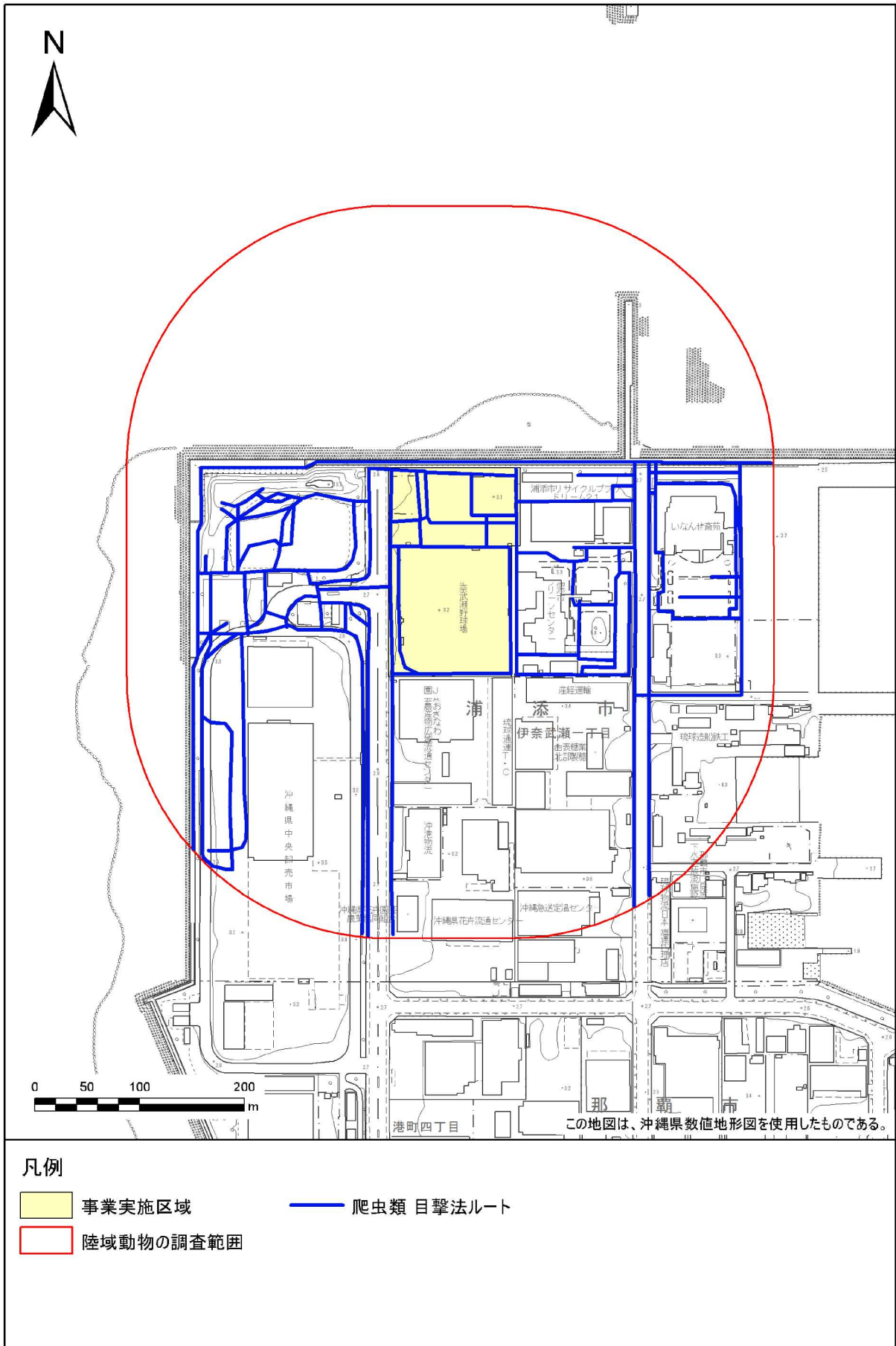


図 7.12.1-3 爬虫類の現地調査位置

(d) 両生類

a) 調査期間

現地調査期間を表 7. 12. 1-11 に示す。

多くの両生類の繁殖期や活動が活発になる温暖で湿潤な時期のうち、夏季の乾燥による両生類の活動低下を考慮し、調査期間は春季と秋季の 2 季とした。

表7. 12. 1-11 現地調査期間

調査項目	調査期間	
両生類	春季	令和2年3月 4日 9時～22時 3月 5日 9時～22時
	秋季	令和2年10月21日 9時～22時 10月22日 9時～22時

b) 調査位置

現地調査位置の設定方法を表 7. 12. 1-12 に示し、現地調査位置を図 7. 12. 1-4 に示す。

表7. 12. 1-12 現地調査位置

調査項目	調査位置	設定数
両生類	目撃法 調査地域の様々な環境を網羅的に踏査した。	—

c) 調査方法

現地調査方法を表 7. 12. 1-13 に示す。

表7. 12. 1-13 現地調査方法

調査項目	調査方法	調査時間
両生類	目撃法 個体の目撃・鳴き声・痕跡(卵殻・死体)により、種類を識別し、種名を記録した。	日中及び夜間

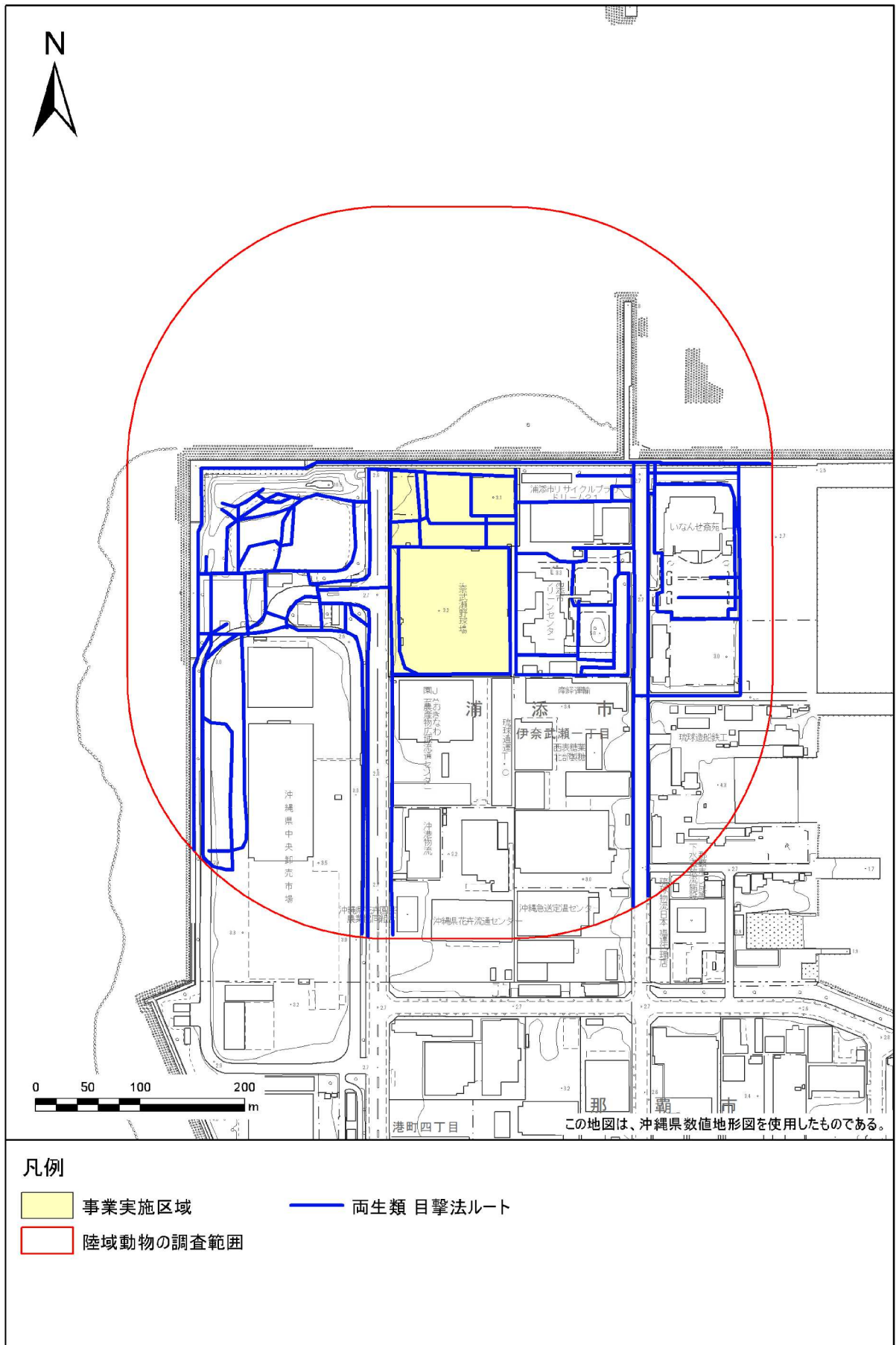


図 7.12.1-4 両生類の現地調査位置

(e) 昆虫類

a) 調査期間

現地調査期間を表 7. 12. 1-14 に示す。

昆虫類の活動が活発になる温暖期のうち、夏枯れに伴う昆虫類の減少を考慮し、調査期間は春季と秋季の2季とした。

表7. 12. 1-14 現地調査期間

調査項目	調査期間	
昆虫類	春季	令和2年 5月25日 9時～23時 5月26日 10時～13時
	秋季	令和2年 9月17日 9時～23時 9月18日 10時～13時

b) 調査位置

現地調査地点の設定方法を表 7. 12. 1-15 に示し、現地調査位置を図 7. 12. 1-5 に示す。

表7. 12. 1-15 現地調査地点

調査項目	調査地点	設定数
昆虫類	任意採集法 調査地域の様々な環境を網羅的に踏査した。	—
	ライトトラップ法 森林性の種を対象とし海岸林沿いに地点1、森林・湿地・草地性の種を対象とし海岸林と湿地・草地の間に地点2、草地・裸地性の種を対象とし草地とグラウンドの間に地点3を設定した。	3地点
	ピットフォールトラップ法 森林性の種を対象とし海岸林の林床に地点1、湿地・草地性の種を対象とし湿地と草地の脇に地点2、草地・裸地性の種を対象とし草地と裸地の境界に地点3を設定した。	3地点

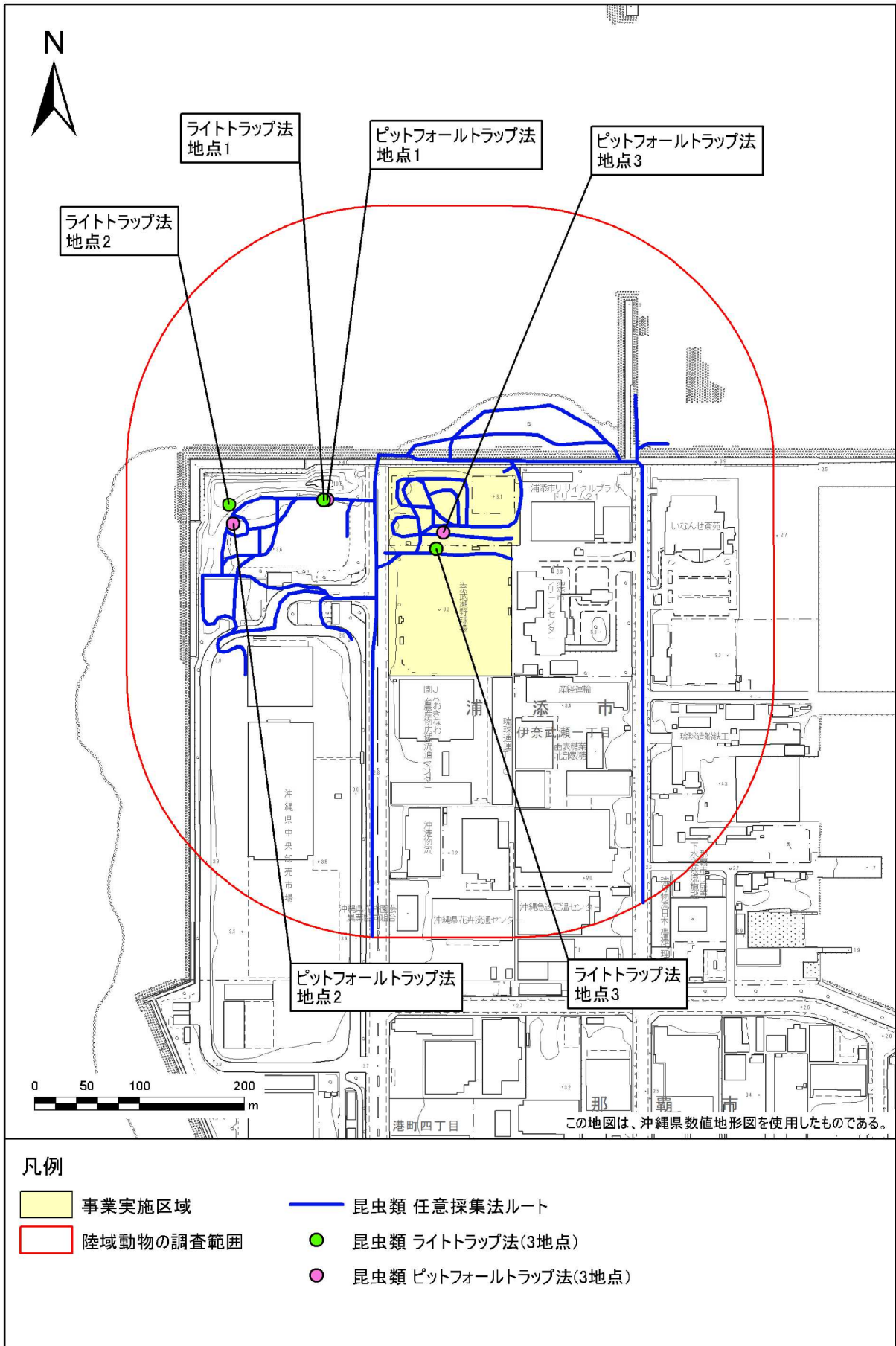


図 7.12.1-5 昆虫類の現地調査位置

c) 調査方法

現地調査方法を表 7. 12. 1-16 に示す。

表 7. 12. 1-16 現地調査方法

調査項目	調査方法	調査時間
昆虫類	<p>任意採集法 個体の目視や鳴き声による確認の他に、捕虫網による見つけ捕りやビーティング法、スィーピング法による採集を行い、種類を識別し、種名を記録した。その場で種類が判らない個体は、標本として持ち帰り、後日、同定した。</p>	日中及び夜間
	<p>ライトトラップ法 夜間、灯火に集まる昆虫類の習性を利用し、光源の下に大型ロートと捕虫器を設置して、集まった昆虫類が大型ロートから滑り落ち、それを捕虫器に収納し採集した。採集標本は持ち帰り、後日、同定した。</p>  <p>ライトトラップ</p>	日没から夜間
	<p>ピットフォールトラップ法 プラスチックコップを地面と同じ高さに口がくするように埋め、1晩放置した後に落下した昆虫類を捕獲した。なお、コップ内には、誘引餌として乳酸飲料とビールの混合液を入れた。採集標本は持ち帰り、後日、同定した。</p>  <p>ピットフォールトラップ</p>	夕方から翌朝

(f) 陸生甲殻類

a) 調査期間

現地調査期間を表 7. 12. 1-17 に示す。

陸生甲殻類の繁殖期や活動が活発になる温暖な時期を考慮し、調査期間は春季、夏季、秋季の3季とした。

表7. 12. 1-17 現地調査期間

調査項目	調査期間	
陸生甲殻類	春季	令和2年3月 4日 9時～22時 注
		3月 5日 9時～22時 注
		4月 8日 9時～21時
	夏季	令和2年8月19日 10時～22時
	秋季	令和2年10月21日 9時～22時 注
		10月22日 9時～22時 注
11月 4日 9時～21時		

注：哺乳類、爬虫類、両生類の調査時に補足で陸生甲殻類の確認を行った。

b) 調査位置

現地調査位置の設定方法を表 7. 12. 1-18 に示し、現地調査位置を図 7. 12. 1-6 に示す。

表7. 12. 1-18 現地調査位置

調査項目	調査位置	設定数
陸生甲殻類	目撃法 調査地域の様々な環境を網羅的に踏査した。	—

c) 調査方法

現地調査方法を表 7. 12. 1-19 に示す。

表7. 12. 1-19 現地調査方法

調査項目	調査方法	調査時間
陸生甲殻類	目撃法 個体の目撃により、種類を識別し、種名を記録した。	日中及び夜間

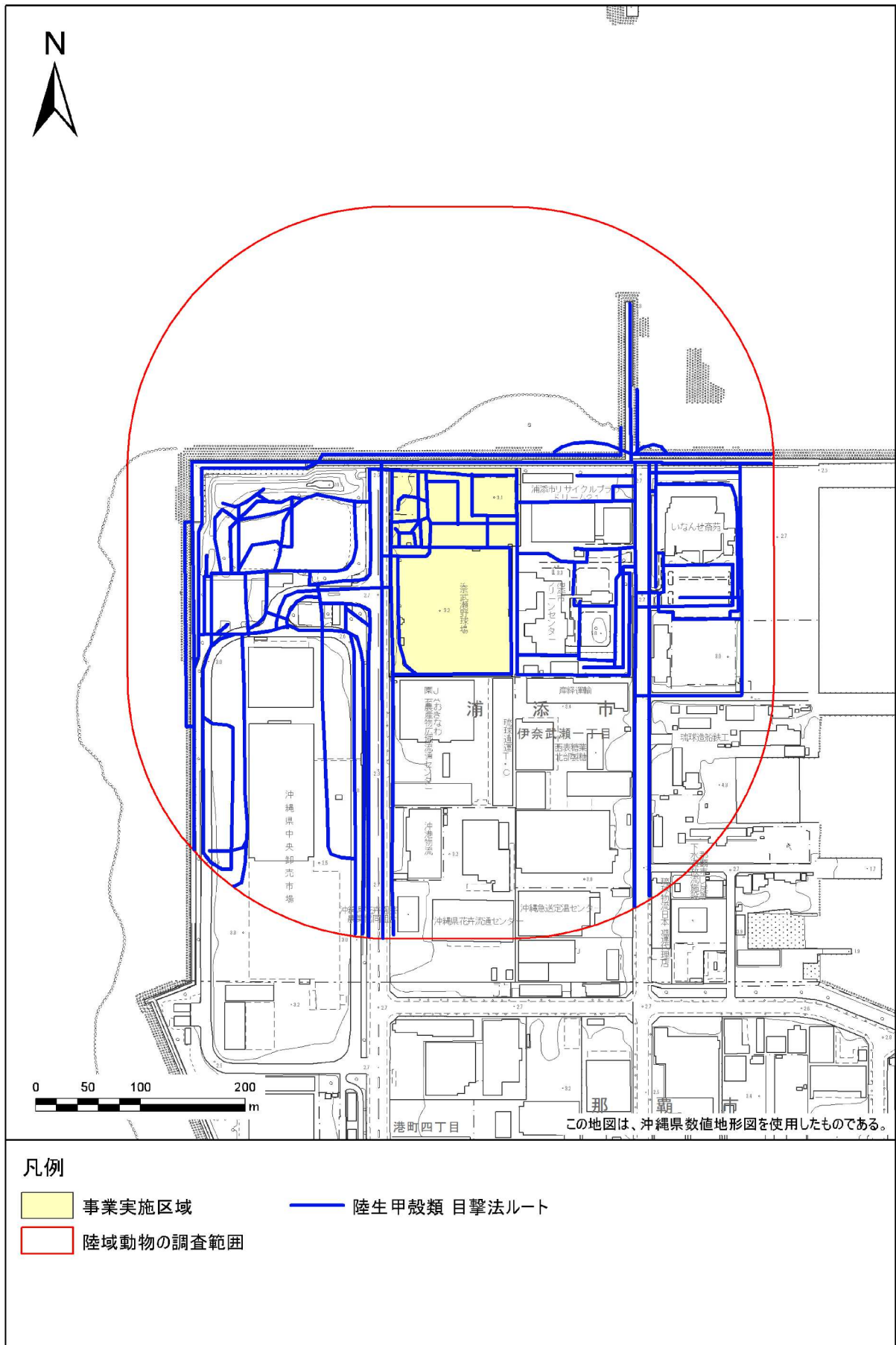


図 7.12.1-6 陸生甲殻類の現地調査位置

(g) 陸産貝類

a) 調査期間

現地調査期間を表 7. 12. 1-20 に示す。

陸産貝類の活動が活発になる温暖で湿潤な時期のうち、夏季の乾燥による陸産貝類の活動低下を考慮し、調査期間は春季と秋季の2季とした。

表7. 12. 1-20 現地調査期間

調査項目	調査期間	
陸産貝類	春季	令和2年5月25日 9時～23時
		5月26日 9時～14時
	秋季	令和2年9月17日 10時～23時
		9月18日 9時～12時

b) 調査位置

現地調査位置の設定方法を表 7. 12. 1-21 に示し、現地調査位置を図 7. 12. 1-7 に示す。

表7. 12. 1-21 現地調査位置

調査項目	調査位置	設定数
陸産貝類	任意採集法 主に、草地、森林及び海岸を踏査した。	—

c) 調査方法

現地調査方法を表 7. 12. 1-22 に示す。

表7. 12. 1-22 現地調査方法

調査項目	調査方法	調査時間
陸産貝類	任意採集法 個体の目撃及び捕獲により、種類を識別し、種名を記録した。	日中及び夜間

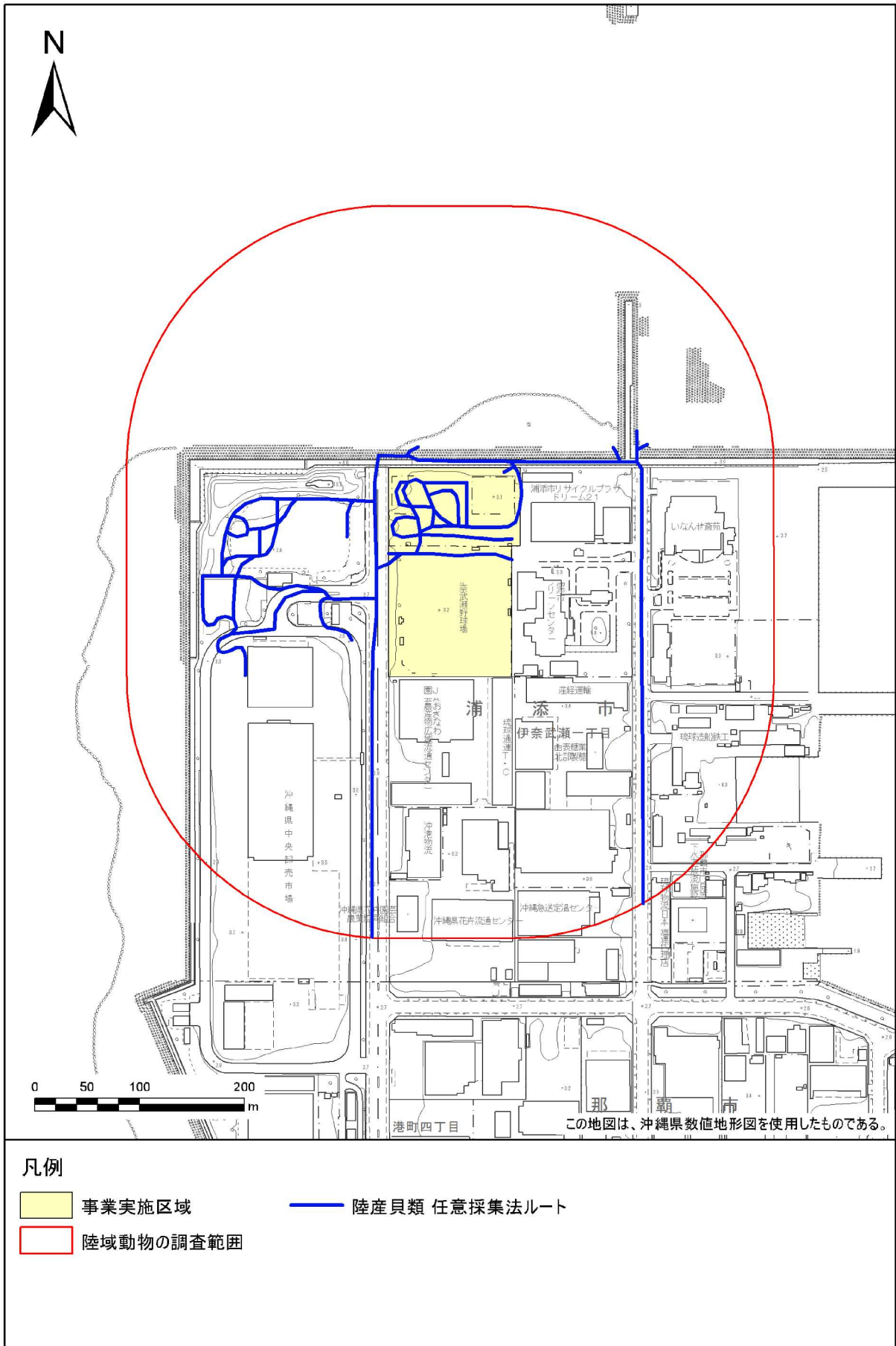


図 7.12.1-7 陸産貝類の現地調査位置

② 重要な動物種の分布及び生息状況

文献記録種及び現地確認種の中から、表 7. 12. 1-23 に示す判定基準に該当する種を重要な動物種として抽出した。

表 7. 12. 1-23 重要な動物種の判定基準及びカテゴリー区分

略称	基準法令・基準文献	カテゴリー区分	
		カテゴリー(略号)	内容
天然記念物	「文化財保護法」 (昭和 25 年、法律第 214 号) 「沖縄県文化財保護条例」 (昭和 47 年、条例第 25 号) 「浦添市文化財保護条例」 (昭和 48 年、条例第 24 号)	国指定天然記念物 (国指定)	学術上貴重で、その地域の自然を記念する種
		県指定天然記念物 (県指定)	
		市指定天然記念物 (市指定)	
種の保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 67 号)	国際希少野生動植物種(国際希少)	ワシントン条約(付属書 I 掲載)、二国間渡り鳥等保護条約・協定(通報種)に基づいて指定されている種
		国内希少野生動植物種(国内希少)	国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為的な影響により減少が見られる種
県希少	「沖縄県希少野生動植物保護条例」 (令和元年、条例第 46 号)	沖縄県指定希少野生動植物種(県指定)	希少野生動植物の種のうち特にその個体の保護の必要があると認めるもの
環境省 RL	「【哺乳類】、【鳥類】、【爬虫類】、【両生類】、【昆虫類】、【貝類】、【その他無脊椎動物】環境省版レッドリスト 2020」 (2020 年、環境省)	絶滅危惧 I 類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
		絶滅危惧 IA 類(CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
		絶滅危惧 IB 類(EN)	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
		絶滅危惧 II 類(VU)	絶滅の危険が増大している種
		準絶滅危惧(NT)	存続基盤が脆弱な種
		情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種
		絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
干潟 RDB	「干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック」 (2012 年、日本ベントス学会) ※陸生甲殻類のみ該当	上記、環境省 RL のカテゴリー及び内容に同じ。	
沖縄県 RDB	「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版(動物編)— レッドデータおきなわ—」 (2017 年、沖縄県)	絶滅危惧 I 類(CR+EN)	沖縄県では絶滅の危機に瀕している種
		絶滅危惧 IA 類(CR)	沖縄県ではごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
		絶滅危惧 IB 類(EN)	沖縄県では IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
		絶滅危惧 II 類(VU)	沖縄県では絶滅の危険が増大している種
		準絶滅危惧(NT)	沖縄県では存続基盤が脆弱な種
		情報不足(DD)	沖縄県では評価するだけの情報が不足している種
		絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高いもの

③ 指定外来種の状況

文献記録種及び現地確認種の中から、表 7. 12. 1-24 に示す判定基準に該当する種を指定外来種として抽出した。

表 7. 12. 1-24 指定外来種の判定基準及びカテゴリー区分

略称	基準法令・基準文献等	カテゴリー区分	
		カテゴリー	内容
外来生物法	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」 (平成 16 年、法律第 78 号)	特定外来生物	海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定され、飼育、栽培、保管、運搬、輸入、野外に放つ、植える、播く、譲渡、販売することが原則禁止される。
沖縄県保護条例	「沖縄県希少野生動植物保護条例」 (令和元年、条例第 46 号)	指定外来種	外来種のうち県内の全部又は一部の区域において希少野生動植物に係る生態系に被害を及ぼし、又は及ぼすおそれのある動植物の種。
生態系被害防止外来種	「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」 (2015 年、環境省)	定着予防外来種	国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な種。
		侵入予防外来種	国内に未侵入の種。導入の予防、水際での監視等により侵入を未然に防ぐ必要がある種。
		その他の定着予防外来種	国内に導入されているが、自然環境における定着は確認されていない種。
		総合対策外来種	国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそのおそれがあるため、防除、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な種。
		緊急対策外来種	対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある種。
		重点対策外来種	甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い種。
		その他の総合対策外来種	むやみに野外に放さないように注意喚起する種。
		産業管理外来種	産業又は公益性において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理が必要な種。
沖縄県対策外来種	「沖縄県対策外来種リスト」 (2018 年、沖縄県)	防除対策外来種	沖縄県内に定着しており生態系への影響が懸念される外来種。
		重点対策種	沖縄県内に定着しており、生態系への影響が大きいことから重点的に駆除等を実施する必要がある外来種。
		対策種	沖縄県内に定着しており、生態系への影響が一定程度あると考えられる外来種。
		定着予防外来種	沖縄県内には未定着であるが、生態系への影響が懸念される外来種。
		重点予防種	沖縄県内には未定着であるが、侵入した際の生態系への影響が大きい外来種。
		予防種	沖縄県内には未定着であるが、生態系への影響が一定程度あると考えられる外来種。
		産業管理外来種	産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系への影響がより小さい代替性を有するものがないため、利用において移出等の防止のための適切な管理が必要な外来種。

(2) 調査結果

1) 動物相の状況

① 文献その他の資料調査

収集した文献・資料を表 7. 12. 1-25 に示す。

表7. 12. 1-25 収集文献・資料一覧

番号	文献・資料名
文献1	「自然環境保全基礎調査 全国鳥類繁殖分布調査第3回(H28～R3) Web版」 (令和3年、環境省 生物多様性センター、いきものログ)
文献2	「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査(哺乳類)、 (両生類・爬虫類)、昆虫(トンボ・チョウ・セミ・ガ・コウチュウ)類、(陸 産貝類) 報告書(自然環境調査Web-GIS版)」(1993～99、環境省自然環境局 生物多様性センター)
文献3	「自然環境の保全に関する指針 ― [沖縄島編] ―」(1998、沖縄県環境保 健部自然保護課)
文献4	「浦添市環境マップ/自然の残された見どころ」(浦添市、2020年2月アク セス、 http://www.city.urasoe.lg.jp/sites/urasoe-envmap/midokoro.htm)

これらの文献・資料の掲載種のうち、本事業の陸域動物調査地域及びその周辺で記録されている種を抽出した。

抽出の結果、文献1より30種、文献2より73種、文献3より21種、文献4より55種、合計144種の記録種が該当した。

文献記録種の一覧を表 7. 12. 1-26(1)～(4)に示し、文献・資料の記録位置を図 7. 12. 1-8に示す。

表7. 12. 1-26(1) 文献記録種

分類	種名	文献			
		1	2	3	4
哺乳類	ワタセジネズミ				○
	オリイオオコウモリ			○	
	オキナワコキクガシラコウモリ			○	
鳥類	カラスバト			○	
	カワラバト(ドバト)	○			○
	キジバト	○			○
	ズアカアオバト	○			
	ゴイサギ	○			○
	ササゴイ				○
	アオサギ	○			
	ダイサギ	○			
	チュウサギ			○	
	クロサギ				○
	バン	○			
	ホトギス	○			
	チュウシャクシギ				○
	キアシシギ				○
	イソシギ				○
	キョウジョシギ				○
	マミジロアジサシ	○			
	ベニアジサシ	○			
	エリグロアジサシ	○			
	ミサゴ	○		○	
	ツミ	○		○ 注1	
	オオコノハズク	○			
	アオバズク	○			
	アカショウビン	○			
	カワセミ	○		○	
	コゲラ	○			
	サンコウチョウ	○			
	ハシブトガラス	○			
	シジュウカラ				○
	ツバメ				○
	リュウキュウツバメ	○			
	シロガシラ	○			○
	ヒヨドリ	○			○
ウグイス	○				
メジロ	○			○	
セッカ	○				
ムクドリ	○				
イソヒヨドリ	○			○	
スズメ	○			○	
シマキンバラ	○				
キセキレイ				○	

注1: 亜種リュウキュウツミで掲載されていたが、現在の知見では沖縄島には当該亜種が分布する。

表7. 12. 1-26(2) 文献記録種

分類	種名	文献			
		1	2	3	4
爬虫類	クロイワトカゲモドキ		○	○	
	ミナミヤモリ				○
	キノボリトカゲ		○		
	ヘリグロヒメトカゲ		○		○
	アオカナヘビ		○		
	アマミタカチホヘビ		○	○	
	ガラスヒバァ		○		
	アカマタ		○		○
	ハイ			○	
	イイジマウミヘビ		○		
両生類	ハブ		○		
	ヒメハブ		○		
	オキナワアオガエル			○	
	リュウキュウカジガガエル				○
	昆虫類	リュウキュウベニイトトンボ		○	
	リュウキュウギンヤンマ		○		○
	カトリヤンマ		○		
	タイリクショウジョウトンボ		○		
	ハラボソトンボ		○		
	オオシオカラトンボ		○		
ウスバキトンボ		○		○	
ハネビロトンボ		○			
タイワンクツワムシ				○	
オキナワモリバッタ			○	○	
クルマバッタ				○	
クロイワゼミ			○		
オサヨコバイ				○	
ナナホシキンカメムシ				○	
オキナワハンミョウ				○	
トウキョウヒメハンミョウ		○			
ルイスツノヒョウタンクワガタ		○			
オキナワノコギリクワガタ			○		
オキナワマドボタル			○		
セイヨウミツバチ				○	
ユウレイセセリ		○			
クロセセリ		○			
イチモンジセセリ		○			
チャバネセセリ		○		○	
クロボシセセリ		○		○	
オオシロモンセセリ		○			
ジャコウアゲハ		○			
アオスジアゲハ		○		○	
ベニモンアゲハ		○			
モンキアゲハ		○			
ナガサキアゲハ		○			

表7.12.1-26(3) 文献記録種

分類	種名	文献			
		1	2	3	4
昆虫類	シロオビアゲハ		○		○
	ナミアゲハ		○		
	カワカミシロチョウ		○		
	ナミエシロチョウ		○		○
	モンシロチョウ		○		
	ウスキシロチョウ		○		
	モンキチョウ		○		
	キチョウ		○		○
	ツマベニチョウ		○	○	
	イワカワシジミ			○	
	オジロシジミ		○		
	ウラナミシジミ		○		
	台湾クロホシシジミ		○		
	アマミウラナミシジミ		○		
	ヤマトシジミ		○		○
	ホリイコシジミ		○		
	テングチョウ		○	○	○
	カバマダラ		○		○
	ツمامラサキマダラ		○		
	オオゴマダラ		○	○	
	リュウキュウアサギマダラ		○		
	アサギマダラ		○		
	ツマグロヒョウモン		○		○
	ヒメアカタテハ		○		○
	イシガケチョウ		○		
	メスアカムラサキ				
	アオタテハモドキ		○		○
	コノハチョウ			○	
	ルリタテハ		○		
	リュウキュウミスジ		○		○
	キタテハ				
	アカタテハ		○		○
	ウスイロコマチョウ		○		○
	リュウキュウヒメジャノメ		○		
	リュウキュウウラナミジャノメ			○	
	クロメンガタズメ		○		
	オオスカシバ		○		
	リュウキュウオオスカシバ		○		
	キョウチクトウスズメ		○		
	オキナワクロホウジャク		○		
イチモンジホウジャク		○			

表7.12.1-26(4) 文献記録種

分類	種名	文献				
		1	2	3	4	
陸生甲殻類	オカヤドカリ				○	
	オカガニ				○	
	クロベンケイガニ				○	
	フタバカクガニ				○	
	ベンケイガニ				○	
	台湾アシハラガニ				○	
	陸産貝類	オキナワヤマキサゴ		○		
		オキナワヤマタニシ				○
ナハキビ			○			
シュリマイマイ					○	
オキナワウスカワマイマイ			○		○	
イトマンマイマイ			○			
パンダナマイマイ			○			
オナジマイマイ			○			
合計	144 種	30 種	73 種	21 種	55 種	

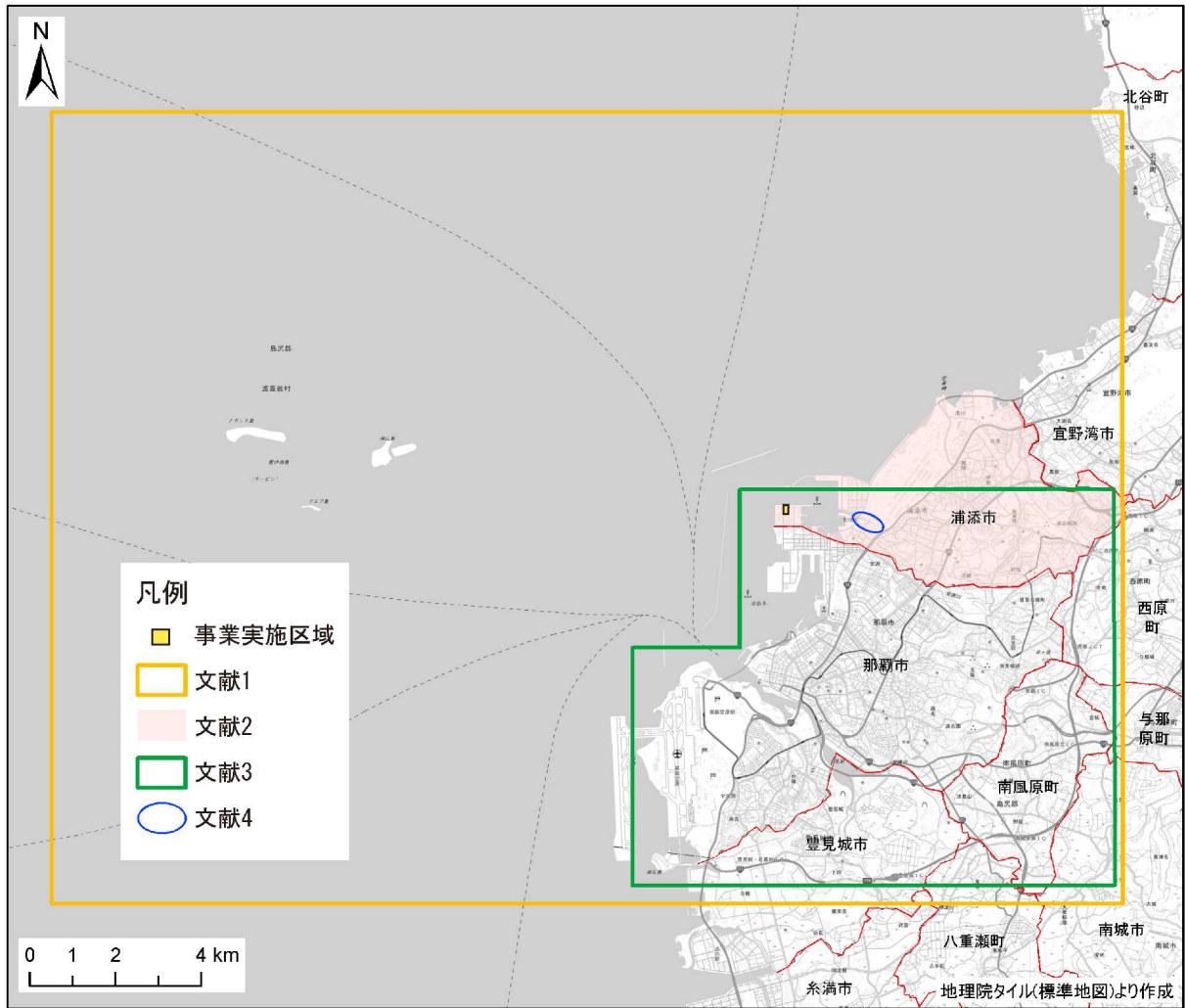


図 7.12.1-8 文献・資料の記録位置

② 現地調査

a. 哺乳類

現地調査で確認された哺乳類の一覧を表 7.12.1-27、無人撮影法結果を表 7.12.1-28、トラップ法結果を表 7.12.1-29 に示す。

現地調査の結果、春季に目撃法で 4 種、無人撮影法で 2 種、トラップ法で 3 種、秋季に目撃法で 5 種、無人撮影法及びトラップ法で各 2 種、合計 4 目 5 科 6 種の哺乳類が確認された。また、無人撮影法では春季に地点 1 及び 2 で各 1 種、秋季に地点 1 及び 2 で各 2 種、トラップ法では春季に範囲 1 で 1 種 3 個体、範囲 2 で 3 種 8 個体、秋季に範囲 1 で 1 種 2 個体、範囲 2 で 2 種 3 個体が確認された。

イエネコは倉庫近辺や路上、ワタセジネズミは草地や路上、ジャコウネズミはゴミ集積所周辺や作業小屋周辺、オリオオコウモリは植栽されたモモタマナの下に落ちていた食痕により、クマネズミ(属)はゴミ集積所周辺や路上、ハツカネズミは草地で確認された。

表 7.12.1-27 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季			秋季		
				目撃	無人撮影	トラップ	目撃	無人撮影	トラップ
ネコ目	ネコ科	イエネコ	<i>Felis catus</i>	○	○		○	○	
モグラ目	トガリネズミ科	ワタセジネズミ	<i>Crocidura watasei</i>	○		○	○		
		ジャコウネズミ	<i>Suncus murinus</i>		○	○	○	○	○
コウモリ目	オオコウモリ科	オリオオコウモリ	<i>Pteropus dasymallus inopinatus</i>	○			○		
ネズミ目	クマネズミ科	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>				○		
		クマネズミ属	<i>Rattus sp.</i>	○					
	ネズミ科	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>			○			○
4 目	5 科	6 種 ^{注2}		4 種	2 種	3 種	5 種	2 種	2 種

注 1：イエネコは、飼育個体の可能性が高い。

注 2：クマネズミ属は、クマネズミと重複する可能性があるため種数に計上しない。

表 7.12.1-28 無人撮影法結果

和名	春季		秋季	
	地点 1	地点 2	地点 1	地点 2
イエネコ	○		○	○
ジャコウネズミ		○	○	○
2 種	1 種	1 種	2 種	2 種

表 7.12.1-29 トラップ法結果

和名	春季		秋季	
	範囲 1	範囲 2	範囲 1	範囲 2
ワタセジネズミ		1 個体		
ジャコウネズミ	3 個体	3 個体	2 個体	1 個体
ハツカネズミ		4 個体		2 個体
3 種	1 種 3 個体	3 種 8 個体	1 種 2 個体	2 種 3 個体

b. 鳥類

現地調査で確認された鳥類の一覧を表 7.12.1-30、渡り区分の定義を表 7.12.1-31、調査方法別の結果を表 7.12.1-32 に示す。

現地調査では、冬季に 6 目 14 科 22 種、春季に 4 目 13 科 20 種、夏季に 4 目 9 科 12 種、秋季に 4 目 15 科 24 種、合計 6 目 19 科 32 種の鳥類が確認された。目別構成をみると、スズメ目が 15 種と最も多く、次いでチドリ目が 11 種、ハト目及びペリカン目が各 2 種、カツオドリ目及びタカ目が各 1 種であった。渡り区分の構成をみると、冬鳥が 20 種と最も多く、次いで留鳥が 13 種、旅鳥が 9 種、夏鳥が 1 種であった(複数区分の該当種は各区分に計上した)。

調査方法別にみると、冬季には目撃法で 17 種、ラインセンサス法で 9 種、定点センサス法で 15 種、春季には目撃法で 17 種、ラインセンサス法で 13 種、定点センサス法で 17 種、夏季には目撃法で 5 種、ラインセンサス法で 8 種、定点センサス法で 12 種、秋季には目撃法で 22 種、ラインセンサス法で 11 種、定点センサス法で 15 種が確認された。

表 7. 12. 1-30 現地調査確認種

目名	科名	和名	学名	調査期間				渡り区分				
				冬季	春季	夏季	秋季	留鳥	冬鳥	旅鳥	夏鳥	
ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	○	○	○	○	○				
		リュウキュウキジバト	<i>Streptopelia orientalis stimpsoni</i>	○	○	○	○	○				
カツオドリ目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo hanedae</i>	○					○			
ペリカン目	サギ科	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>				○		○			
		クロサギ	<i>Egretta sacra sacra</i>	○	○	○	○	○				
チドリ目	チドリ科	ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	○	○		○		○	○		
		シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus dealbatus</i>	○			○	○	○	○		
		メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus stegmanni</i>	○			○		○	○		
	シギ科	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica baueri</i>		○					○	○	
		チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus variegatus</i>				○			○	○	
		アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>		○		○			○	○	
		キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	○	○	○	○			○	○	
		イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○	○	○	○			○		
	キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres interpres</i>	○	○		○			○	○		
	カモメ科	セグロカモメ	<i>Larus argentatus vegae</i>	○						○		
コアジサシ		<i>Sterna albifrons sinensis</i>		○							○	
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i>	○					○			
スズメ目	モズ科	シマアカモズ	<i>Lanius cristatus lucionensis</i>	○					○			
	カラス科	リュウキュウハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos connectens</i>	○	○	○	○	○				
		ツバメ科	リュウキュウツバメ	<i>Hirundo tahitica namiyei</i>		○	○	○	○			
	ヒヨドリ科	シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis ssp.</i>	○	○	○	○	○				
		リュウキュウヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis pryeri</i>	○	○	○	○	○				
	ウグイス科	ウグイス ^注	<i>Cettia diphone</i>		○		○			○		
	ムシクイ科	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>				○			○	○	
	メジロ科	リュウキュウメジロ	<i>Zosterops japonicus loochooensis</i>	○	○	○	○	○				
	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>				○	○	○			
	ヒタキ科	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	○	○					○		
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus aureus</i>	○						○		
		インヒヨドリ	<i>Monticola solitarius philippensis</i>	○	○	○	○	○				
	スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus saturatus</i>	○	○	○	○	○				
カエデチョウ科	シマキンパラ	<i>Lonchura punctulata topela</i>				○	○					
セキレイ科	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>		○					○			
	亜種ハクセキレイ	<i>Motacilla alba lugens</i>	○			○						
6 目	19 科	32 種	6 目 14 科 22 種	4 目 13 科 20 種	4 目 9 科 12 種	4 目 15 科 24 種	13 種	20 種	9 種	1 種		

注:ウグイスは、亜種ウグイス *C. d. cantans* もしくは亜種リュウキュウウグイス *C. d. riukuensis* のいずれかであった。

表 7. 12. 1-31 渡り区分の定義

区分	定義
留鳥	一年中、同一地域に生息し、季節移動をしない鳥。
冬鳥	夏の終わりから秋にかけて、北方の地域から渡来して越冬し、春になると北方の地域へ渡去し、夏にはそこで繁殖する渡り鳥。
旅鳥	渡り鳥が春と秋の移動の途中に、ある地域を通過する場合、その地域におけるその渡り鳥。
夏鳥	春から夏の始め頃に、南方の地域から渡来して営巣・繁殖し、秋に再び南方の地域へ去る渡り鳥。

表 7.12.1-32 調査方法別結果

和名	冬季			春季			夏季			秋季		
	目撃	ライン	定点	目撃	ライン	定点	目撃	ライン	定点	目撃	ライン	定点
カワラバト(ドバト)	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○
リュウキュウキジバト		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
カワウ	○		○									
ダイサギ										○		
クロサギ	○		○	○	○	○			○	○		
ムナグロ	○			○						○		○
シロチドリ	○									○		
メダイチドリ	○									○		
オオソリハシシギ				○								
チュウシャクシギ										○		
アオアシシギ					○	○						○
キアシシギ	○		○	○	○	○			○	○		○
イソシギ			○	○		○			○	○		○
キョウジョシギ	○		○	○		○				○		○
セグロカモメ			○									
コアジサシ				○								
ミサゴ	○											
シマアカモズ		○										
リュウキュウハシブトガラス	○		○	○	○	○			○	○	○	○
リュウキュウツバメ				○	○	○	○	○	○	○	○	○
シロガシラ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
リュウキュウヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウグイス				○	○	○				○	○	
エゾムシクイ											○	
リュウキュウメジロ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
ムクドリ										○		
シロハラ	○	○	○		○	○						
ジョウビタキ		○										
イソヒヨドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シマキンパラ										○		
ハクセキレイ						○						
亜種ハクセキレイ	○		○							○		○
合計	17種	9種	15種	17種	13種	17種	5種	8種	12種	22種	11種	15種

c. 爬虫類

現地調査で確認された爬虫類の一覧を表 7. 12. 1-33 に示す。

現地調査の結果、春季に 3 種、秋季に 2 種、合計 1 目 2 科 3 種の爬虫類が確認された。

ホオグロヤモリは海岸の落ち葉下や建物壁面など、ミナミヤモリは植栽林帯、ブラーミニメクラヘビは野球場やゴミ集積所周辺のコンクリート片下で確認された。

表 7. 12. 1-33 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季	秋季
有鱗目	ヤモリ科	ホオグロヤモリ	<i>Hemidactylus frenatus</i>	○	○
		ミナミヤモリ	<i>Gekko hokouensis</i>	○	○
	メクラヘビ科	ブラーミニメクラヘビ	<i>Indotyphlops braminus</i>	○	
1 目	2 科	3 種		3 種	2 種

d. 両生類

現地調査で確認された両生類の一覧を表 7. 12. 1-34 に示す。

現地調査の結果、春季に 3 種、秋季に 2 種、合計 1 目 1 科 3 種の両生類が確認された。

リュウキュウカジカガエルはゴミ集積所周辺、ヌマガエルは林縁の水溜り、シロアゴガエルは排水溝近辺や林縁の水溜りで確認された。

表 7. 12. 1-34 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季	秋季
カエル目	アオガエル科	リュウキュウカジカガエル	<i>Buergeria japonica</i>	○	○
		ヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>	○	
		シロアゴガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	○	○
1 目	1 科	3 種		3 種	2 種

e. 昆虫類

現地調査で確認された昆虫類の一覧を表 7. 12. 1-35(1)～(10)、ライトトラップ法結果を表 7. 12. 1-36(1)～(4)、ピットフォールトラップ法結果を表 7. 12. 1-37(1)～(2)に示す。

春季に任意採集法で 239 種、ライトトラップ法で 141 種、ピットフォールトラップ法で 55 種、小計 15 目 128 科 360 種、秋季には任意採集法で 150 種、ライトトラップ法で 60 種、ピットフォールトラップ法で 42 種、小計 9 目 86 科 220 種、2 季の合計で 15 目 140 科 456 種の昆虫類が確認された。

ライトトラップ法では、春季に地点 1 で 83 種 545 個体、地点 2 で 82 種 511 個体、地点 3 で 80 種 473 個体、秋季に地点 1 で 30 種 139 個体、地点 2 で 31 種 81 個体、地点 3 で 21 種 47 個体、2 季合計で 8 目 68 科 175 種の昆虫類が採集された。

ピットフォールトラップ法では、春季に地点 1 で 26 種 340 個体、地点 2 で 18 種 864 個体、地点 3 で 35 種 258 個体、秋季に地点 1 で 16 種 1358 個体、地点 2 で 12 種 7508 個体、地点 3 で 32 種 933 個体、2 季合計で 9 目 40 科 74 種の昆虫類が採集された。

表 7. 12. 1-35(1) 現地確認種

日名	科名	和名	学名	春季			秋季		
				任意	ライト	ピット	任意	ライト	ピット
トンボ目	トンボ科	ヒメトンボ	<i>Diplacodes trivialis</i>	○			○		
		ウミアカトンボ	<i>Macrodiplex cora</i>				○		
		ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	○			○		
		オキナワチョウトンボ	<i>Rhyothemis variegata imperatrix</i>				○		
シロアリモドキ目	シロアリモドキ科	シロアリモドキ	<i>Oligotoma saundersii</i>	○					
ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	オキナワチャバネゴキブリ	<i>Blattella asahinai</i>						○
		ヒメチャバネゴキブリ	<i>Blattella lituricollis</i>			○			
		フタテンコバネゴキブリ	<i>Loboptercella dimidiatipes</i>	○		○	○		○
		ツチゴキブリ	<i>Margattea kumamotois</i>	○		○	○		○
		アミメヒラタゴキブリ	<i>Onychostylus notulatus</i>			○			
		ミナミヒラタゴキブリ	<i>Onychostylus vilis</i>	○			○		
	ゴキブリ科	ワモンゴキブリ	<i>Periplaneta americana</i>	○			○		
		コワモンゴキブリ	<i>Periplaneta australasiae</i>	○			○		
	オオゴキブリ科	リュウキュウゴキブリ	<i>Pycnoscelus indicus</i>	○					
カマキリ目	カマキリ科	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>	○					
		スジイリコカマキリ	<i>Statilia nemoralis</i>	○					
シロアリ目	ミゾガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ属	<i>Reticulitermes</i> sp.	○	○				
バッタ目	キリギリス科	オガサワラクビキリギリス	<i>Euconocephalus pallidus</i>	○			○		
		クビキリギリス	<i>Euconocephalus varius</i>				○		
		ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>	○			○		
	クツワムシ科	タイワンクツワムシ	<i>Mecopoda elongata</i>	○					
	ツユムシ科	リュウキュウツユムシ	<i>Phaneroptera gracilis</i>	○					
	コオロギ科	カマドコオロギ	<i>Gryllobates sigillatus</i>	○			○		
		ネッタイオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus equester</i>						○
		マメクロコオロギ	<i>Melanogryllus bilineatus</i>				○		
		タイワンエンマコオロギ	<i>Teleogryllus occipitalis</i>	○			○		○
		ナツノツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus grylloides</i>						○
	ヒバリモドキ科	フタイロヒバリ	<i>Homoeoxipha lycoides</i>	○					
		オキナワヒバリモドキ	<i>Trigonidium pallipes</i>	○			○		
		ネッタイシバスズ	<i>Polionemobius taprobanensis</i>	○		○			○
	カナタタキ科	イソカナタタキ	<i>Ornebius bimaculatus</i>	○					

表 7. 12. 1-35 (2) 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季			秋季			
				任意	ラ付	ビッ	任意	ラ付	ビッ	
バッタ目(続き)	ケラ科	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i>	○			○			
	ヒシバッタ科	セダカヒシバッタ	<i>Hedotettix gracilis</i>	○						
		ヒメヒシバッタ	<i>Tetrix minor</i>	○		○	○			
	オンブバッタ科	アカハネオンブバッタ	<i>Atractomorpha sinensis sinensis</i>	○			○			
	バッタ科	アカアシホソバッタ	<i>Stenocatantops mistschenkoi</i>				○			
		タイワンツチイナゴ	<i>Patanga succincta</i>	○			○			
		コイナゴ	<i>Oxya hyla intricata</i>				○			
		ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>	○		○	○			
		マダラバッタ	<i>Aiolopus thalassinus tamulus</i>	○			○			
		クルマバッタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i>				○			
トノサマバッタ		<i>Locusta migratoria manilensis</i>				○				
ハサミムシ目	ハサミムシ科	ヤニイロハサミムシ	<i>Anisolabis picea</i>	○						
		コヒゲジロハサミムシ	<i>Euborellia annulipes</i>			○			○	
	オオハサミムシ科	ヒメハサミムシ	<i>Nala lividipes</i>				○			
チャタテムシ目	チャタテ科	チャタテ科	Psocidae gen. sp.		○					
アザミウマ目	クダアザミウマ科	クダアザミウマ科	Phlaeothripidae gen. sp.	○		○				
カメムシ目	セミ科	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>	○						
	ツノゼミ科	マルツノゼミ	<i>Gargara genistae</i>	○			○		○	
	ヨコバイ科	シロオオヨコバイ	<i>Cofana spectra</i>	○						
		<i>Draculacephala</i> 属	<i>Draculacephala</i> sp.	○		○	○			
		オサヨコバイ	<i>Tartessus ferrugineus</i>	○			○			
		チャイロヒラタヨコバイ近似種	<i>Penthimia</i> aff. <i>guttula</i>	○						
		アオズキンヨコバイ属	<i>Batracomorphus</i> sp.	○						
		クロミヤクイチモンジヨコバイ	<i>Exitianus indicus</i>	○			○			
		サジヨコバイ	<i>Hecalus prasinus</i>				○			
		シロミヤクイチモンジヨコバイ	<i>Paramesodes albinervosus</i>				○			
		ホソサジヨコバイ	<i>Nirvana pallida</i>	○			○			
		<i>Coloana</i> 属	<i>Coloana</i> sp.	○	○		○			
		ヨコバイ科		<i>Cicadellidae</i> gen. sp.						○
	ヒシウンカ科	ヒシウンカ類似種	<i>Pentastridius</i> cf. <i>apicalis</i>				○			
	ウンカ科	ヒメトビウンカ類似種	<i>Laodelphax</i> cf. <i>striatella</i>						○	
		クロフツノウンカ	<i>Perkinsiella saccharicida</i>						○	
		コブウンカ	<i>Tropidocephala brunneipennis</i>	○						
		<i>Sogatella</i> 属	<i>Sogatella</i> sp.				○			
	シマウンカ科	シマウンカ	<i>Nisia nervosa</i>				○			
	ダンバイウンカ科	ミドリグンバイウンカ	<i>Kallitaxila sinica</i>	○						
		タイワンハウチワウンカ	<i>Trypetimorpha biermani</i>	○						
	テングスケバ科	オキナワテングスケバ	<i>Dictyophara okinawensis</i>					○		
		ツマグロスケバ	<i>Orthopagus lunulifer</i>					○		
	アオバハゴロモ科	トビイロハゴロモ	<i>Mimophantia maritima</i>	○						
	トガリキジラミ科	コクタントガリキジラミ	<i>Megatrioza magnicauda</i>	○						
	アシトメミズムシ科	アシトメミズムシ	<i>Nerthra macrothorax</i>	○						
	カタビロアメンボ科	ケシウミアメンボ	<i>Halovelia septentrionalis</i>	○				○		
		ケシカタビロアメンボ	<i>Microvelia douglasi</i>	○						
	サンゴアメンボ科	サンゴアメンボ	<i>Hermatobates schuhi</i>				○			
	アメンボ科	セスジアメンボ	<i>Limnogonus fossarum fossarum</i>	○						
ミズギワカメムシ科	サンゴミズギワカメムシ	<i>Salduncula decempunctata</i>	○							
カスミカメムシ科	サキシマキイロツヤカスミカメ類似種	<i>Deraeocoris</i> cf. <i>hayashii</i>	○	○						
	セスジクロツヤカスミカメ	<i>Deraeocoris ryukyuensis</i>	○	○						
	リュウキュウテングカスミカメ	<i>Teratophyllum acneum</i>		○						
	アカホシカスミカメ	<i>Creontiades coloripes</i>	○							
	アカスジホソナガカスミカメ	<i>Dolichomiris linearis</i>	○							

表 7. 12. 1-35 (3) 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季			秋季		
				任意	ラ付	ビッ	任意	ラ付	ビッ
カメムシ目 (続き)	カスミカメムシ科(続き)	フタホシカスミカメ	<i>Creontiades bipunctatus</i>				○		
		ウスオビヒメカスミカメ	<i>Prolygus bakeri</i>		○				
		コミドリチビトビカスミカメ	<i>Campylomma chinensis</i>		○				
		アカヒメチビカスミカメ	<i>Decomioides schneirlai</i>		○	○			
		ミナミスケバチビカスミカメ	<i>Moissonia punctata</i>		○				
		ムモンスカシチビカスミカメ	<i>Opuna pallidula</i>		○			○	
		ムナグロキイロカスミカメ	<i>Tyttus chinensis</i>		○				
	マキバサシガメ科	ミナミマキバサシガメ	<i>Nabis kinbergii</i>	○					
	ハナカメムシ科	クビレヤサハナカメムシ	<i>Amphiareus constrictus</i>	○	○				
		クシハナカメムシ類似種	<i>Cardiastethus cf. pygmaeus</i>		○				
		ヒメハナカメムシ属	<i>Orius</i> sp.	○					
	サシガメ科	オキナワハラアサシガメ	<i>Scadra okinawensis</i>				○		
		ハイイロイボサシガメ	<i>Coranus spiniscutis</i>	○			○		
		キボシサシガメ	<i>Ectomocoris biguttulus</i>					○	
		クロサシガメ	<i>Peirates cinctiventris</i>				○	○	
		キベリユミアシサシガメ	<i>Polytoxus fuscovittatus</i>	○					
		モモフトトビイロサシガメ	<i>Oncocephalus femoratus</i>	○		○	○		
		トビイロサシガメ属 ^註	<i>Oncocephalus</i> sp.			○ ^註			○
	ヒラタカメムシ科	バラオヒラタカメムシ	<i>Neuroctenus palauensis</i>	○				○	
	ヒョウタンナガカメムシ科	ヤスマツチビナガカメムシ	<i>Botocudo yasumatsui</i>		○	○			
		エサキナガカメムシ	<i>Ncolethaeus esakii</i>	○			○		
		ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	<i>Gyndes pallicornis</i>	○					
		モンクロナガカメムシ	<i>Horridipamera nietneri</i>	○	○				○
		アカアシホソナガカメムシ	<i>Paromius gracilis</i>	○					
		ホソヒョウタンナガカメムシ	<i>Pseudopachybrachius gutta</i>	○					
		ミナミヒョウタンナガカメムシ	<i>Remaudiereana annulipes</i>		○			○	
		イチゴチビナガカメムシ	<i>Stigmatonotum geniculatum</i>		○				
		オキナワシロヘリナガカメムシ	<i>Elasmolomus sordidus</i>	○	○				
		ヒョウタンナガカメムシ科 ^註	Rhyparochromidae gen. sp.					○	
	オオメナガカメムシ科	チビオオメナガカメムシ	<i>Geocoris jucundus</i>	○					○
		ツマジロオオメナガカメムシ	<i>Geocoris ochropterus</i>	○			○		
	マダラナガカメムシ科	ヒメマダラナガカメムシ	<i>Graptostethus servus servus</i>	○					
		セスジヒメナガカメムシ	<i>Nysius graminicola graminicola</i>	○			○		
	ホシカメムシ科	シロジュウジホシカメムシ	<i>Dysdercus decussatus</i>				○		
	ホソヘリカメムシ科	ヒメホソヘリカメムシ	<i>Melanacanthus ferrugineus</i>	○			○		
		キスジホソヘリカメムシ	<i>Riptortus linearis</i>	○			○		
		ホソヘリカメムシ科 ^註	Alydidae gen. sp.			○			
	ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ	<i>Liorhyssus hyalinus</i>	○					
		ブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonervosus</i>	○					
	ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>	○			○		
		ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>	○			○		
		ヒメハリカメムシ	<i>Cletus trigonus</i>	○			○		
	ツチカメムシ科	ヒメツチカメムシ	<i>Fromundus pygmaeus</i>		○				
	カメムシ科	アヤナミカメムシ	<i>Agonoscelis femoralis</i>	○			○		
		ヒメチャバネアオカメムシ	<i>Plautia splendens</i>	○					
		チャバネアオカメムシ	<i>Plautia stali</i>				○		
		キシモフリクチプトカメムシ	<i>Eocanthecona furcellata</i>				○		
		タイワントゲカメムシ	<i>Carbula crassiventris</i>	○			○		
		マルシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris guttigerus</i>	○			○		
		シラホシカメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i>				○		
		ミナミアオカメムシ	<i>Nozara viridula</i>				○		
		ヒメクロカメムシ	<i>Scotinophara scotti</i>	○					

注：すでに確認されている種と重複する可能性があるため、種数に計上しない。

表 7. 12. 1-35(4) 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季			秋季		
				任意	ラト	ビッ	任意	ラト	ビッ
アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	ヤマトクサカゲロウ	<i>Chrysoperla nipponensis</i>	○	○				
		カオマダラクサカゲロウ	<i>Mallada boninensis</i>	○					
コウチュウ目	ハンミョウ科	コハンミョウ	<i>Cicindela specularis</i>	○			○		
	オサムシ科	キイロチビゴモクムシ	<i>Acupalpus inornatus</i>		○				
		コアトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius hamifer</i>		○				
		オオアオモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes buchani</i>		○				
		ヒロアオヘリホソゴミムシ	<i>Drypta lineola virgata</i>		○				
		ケウスゴモクムシ	<i>Harpalus griseus</i>			○			
		クロオビコムズギワゴミムシ	<i>Paratachys fasciatus fasciatus</i>		○				
		ウスイロコムズギワゴミムシ類似種	<i>Paratachys cf. pallescens</i>			○			
		ダイミョウツブゴミムシ	<i>Pentagonica daimaiella</i>		○				
		ミナミチビミズギワゴミムシ	<i>Polyderis impressipennis</i>		○				
		ミドリマメゴモクムシ	<i>Stenolophus difficilis</i>			○			
		イツホシマメゴモクムシ	<i>Stenolophus quinquepustulatus</i>	○	○				○
		シラキマメゴモクムシ	<i>Stenolophus shirakii</i>			○			
		ヨツボシチビアトキリゴミムシ	<i>Syntomus quadripunctatus</i>			○			
		ミナミチビカワゴミムシ	<i>Tachyta umbrosa</i>			○			
		クリイロコムズギワゴミムシ	<i>Tachyura fumicata</i>	○	○				
		ゲンゴロウ科	リュウキュウセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus andamanicus</i>	○				
	ダイロンセスジゲンゴロウ		<i>Copelatus tenebrosus</i>						○
	ウスイロシマゲンゴロウ		<i>Ilydaticus rhantoides</i>		○				
	アマミチビゲンゴロウ		<i>Ilydroglyphus amamiensis</i>	○	○				○
	サビモンマルチビゲンゴロウ		<i>Leiodytes nicobaricus</i>		○				
	チャイロチビゲンゴロウ		<i>Liodesus megacephalus</i>	○					
	ガムシ科	ウスモンケシガムシ類似種	<i>Cercyon cf. laminatus</i>		○				○
		セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i>	○				○	
		ウスグロヒラタガムシ	<i>Enochrus unifornis</i>	○	○				
		ルイスヒラタガムシ	<i>Helochaeres pallens</i>	○	○				
		マグソガムシ類似種	<i>Pachysternum cf. haemorrhoum</i>		○				
		チビマルガムシ	<i>Paracymus evanescens</i>	○	○				
		マメガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i>	○					
		ミナミヒメガムシ	<i>Sternolophus inconspicuus</i>	○					○
		ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i>	○	○				
	ハネカクシ科	ウスアカヒゲブトハネカクシ	<i>Aleochara puberula</i>		○				
		コバネアシベセスジハネカクシ	<i>Anotylus amicus</i>			○			○
		フタホシシリグロハネカクシ類似種	<i>Astenus cf. maculipennis</i>		○				
		チャムネハラホソハネカクシ近似種	<i>Atanygnathus aff. terminalis</i>					○	
		キバネセミゾハネカクシ	<i>Myrmecocephalus sapidus</i>		○				
		ニセユミセミゾハネカクシ	<i>Carpelimus vagus</i>	○	○				○
		チビニセユミセミゾハネカクシ	<i>Carpelimus exiguus</i>		○				○
		ミナミチビマルクビハネカクシ	<i>Erchomus micropennis</i>		○				
		ヒメトガリハネカクシ	<i>Hypomedonde bilicornis</i>		○				
		クロズトガリハネカクシ	<i>Lithocharis nigriceps</i>		○				○
		クロズマグソセスジハネカクシ	<i>Oxytelus bengalensis</i>		○				
		アカセスジハネカクシ	<i>Oxytelus incisus</i>		○				
		クロズセスジハネカクシ	<i>Oxytelus nigriceps</i>		○				
		ドウガネコガシラハネカクシ	<i>Philonthus aeneipennis</i>		○				○
		カクコガシラハネカクシ	<i>Philonthus rectangularis</i>						○
		クビボソハネカクシ	<i>Rugilus rufescens</i>		○				
キバネクビボソハネカクシ		<i>Rugilus ceylanensis</i>		○					
チビクビボソハネカクシ		<i>Scopacus virilis</i>						○	
クロズシリホソハネカクシ		<i>Tachyporus celatus</i>		○					

表 7. 12. 1-35 (5) 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季			秋季		
				任意	ライト	ビット	任意	ライト	ビット
コウチュウ目 (続き)	ハネカクシ科(続き)	モンクローリノスハネカクシ類似種	<i>Zyras cf. loptatus</i>	○					
		アリヅカムシ亜科	<i>Pselaphinae gen. sp.</i>		○				
	アツバコガネ科	フチトリアツバコガネ	<i>Phaeochrous emarginatus emarginatus</i>		○				
	コガネムシ科	ヤノスジコガネ日本亜種	<i>Anomala limbifera yanoi</i>	○	○				
		オキナワカンショコガネ	<i>Apogonia bicarinata okinawana</i>	○	○				
		オオニセツツマグソコガネ	<i>Ataenius australasiae</i>	○	○				
		オキナワヒロウドコガネ	<i>Maladera okinawaensis</i>	○	○				
		オキナワマメコガネ	<i>Popillia lewisi</i>				○		
		サカイシロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis sakaii</i>	○			○		
		タイケシマグソコガネ	<i>Psammodius thailandicus</i>			○			
		キタヤマホソケシマグソコガネ	<i>Trichorhyssmus kitayamai</i>						○
	ダエンマルトグムシ科	リュウキュウダエンマルトグムシ	<i>Chelonarium ohbayashii</i>		○				
	チビドロムシ科	ババチビドロムシ	<i>Babalimnichus masamii</i>	○					
	タマムシ科	ヒゲブトケンタマムシ類似種	<i>Aphanisticus cf. antennatus</i>	○			○		
		アオムネスジタマムシ	<i>Chrysodema manillarum</i>				○		
	コメツキムシ科	スジマダラチビコメツキ	<i>Acoloderma brachmana</i>		○	○			○
		ハマベヒメサビキコリ	<i>Agrypnus miyamotoi miyamotoi</i>			○			
		キアシクロムナボソコメツキ近似種	<i>Ectinus aff. insidiosus</i>	○	○	○			
		ヒサマツチビコメツキ	<i>Prodrasterius hisamatsui hisamatsui</i>					○	○
		オキナワクチブトコメツキ	<i>Silesis okinawensis okinawensis</i>	○					
	ケシキスイ科	ウスチャデオキスイ	<i>Carpophilus freemani</i>					○	
		クリヤケシキスイ	<i>Carpophilus hemipterus</i>	○					
		クリイロデオキスイ	<i>Carpophilus marginellus</i>						○
		デメヒラタケシキスイ	<i>Ilaptoncurina motschulskii</i>	○	○				
		ツヤチビヒラタケシキスイ	<i>Ilaptoncus concolor</i>		○				
		モンチビヒラタケシキスイ	<i>Ilaptoncus ocularis</i>		○	○			
		マルヒラタケシキスイ	<i>Parametopia xrubrum</i>		○				
		ヨツモンキバケシキスイ	<i>Prometopia quadrimaculata</i>		○			○	
		マルキマダラケシキスイ	<i>Stelidota multiguttata</i>			○			
		カタベニデオキスイ	<i>Urophorus humeralis</i>	○		○			
	ネスイムシ科	トビイロデオネスイ	<i>Monotoma picipes</i>		○			○	
	ホソヒラタムシ科	モンセマルホソヒラタムシ	<i>Cryptamorphia desjardinsi</i>	○					
		ミツモンセマルヒラタムシ	<i>Psammoeceus triguttatus</i>	○	○				
		ヒメフクトグホソヒラタムシ類似種	<i>Silvanus cf. lewisi</i>		○				
		ミツカドコナヒラタムシ類似種	<i>Silvanoprus cf. scuticollis</i>		○				
	キシイムシ科	マルガタキシイ	<i>Curelius japonicus</i>		○			○	
	テントウムシダマシ科	ヒゲブトテントウダマシ	<i>Trochoideus desjardinsi</i>		○				
	テントウムシ科	ミスジキイロテントウ	<i>Brumoides ohtai</i>	○					
		ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	○			○		
		カタボシテントウ	<i>Coelophora inaequalis</i>				○		
		ジュウニマダラテントウ	<i>Epilachna boisduvali</i>	○					
		ニジュウヤホシテントウ	<i>Epilachna vigintioctopunctata</i>	○		○			
		アマミキイロテントウ	<i>Illeis koebelei amamiana</i>	○	○				
		ダンドラテントウ	<i>Menochilus sexmaculatus</i>	○			○		
		ヒメツヤテントウ	<i>Microserangium okinawense</i>	○					
		ニセセスジヒメテントウ	<i>Nephus tagiapatus</i>	○			○		
		ハイロテントウ	<i>Olla v-nigrum</i>	○			○		
		ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i>	○			○		
		ナガサキヒメテントウ	<i>Pseudoscymnus nagasakiensis</i>				○		
		ムツボシテントウ類似種	<i>Oenopia cf. scalaris</i>				○		
		クロヘリヒメテントウ	<i>Scymnus hofmanni</i>	○					
		クロスジヒメテントウ	<i>Scymnus nigrosuturalis</i>				○		

表 7. 12. 1-35 (6) 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季			秋季			
				任意	ライト	ビット	任意	ライト	ビット	
コウチュウ目 (続き)	コキノコムシ科	ウスモンヒメコキノコムシ	<i>Litargus lewisi</i>		○					
		チャイロコキノコムシ	<i>Typhaea stercorea</i>		○	○				
	カミキリモドキ科	ハイイロカミキリモドキ	<i>Eobia cinereipennis cinereipennis</i>	○	○					
		ハラグロランプカミキリモドキ	<i>Eobia florilega</i>	○	○					
		ツマグロカミキリモドキ	<i>Nacerdes melanura</i>		○					
		オキナワウメノカミキリモドキ	<i>Nacerdes umenoi okinawensis</i>	○						
	アリモドキ科	ムネアカアリモドキ	<i>Anthelephila ruficollis</i>		○		○			
		オキナワホソクビアリモドキ	<i>Formicomus okinawanus</i>	○	○		○			
		フタモンクビボソムシ	<i>Macratia griseosellata</i>		○					
	ニセクビボソムシ科	マダラニセクビボソムシ類似種	<i>Phytobaenus cf. amabilis</i>		○					
	チビキカワムシ科	アマミクチキムシダマシ類似種	<i>Elacatis cf. atrithorax</i>		○					
	ハムシダマシ科	ウルマクロハムシダマシ	<i>Lagria okinawana</i>	○						
	ゴミムシダマシ科	アマミホソゴミムシダマシ	<i>Corticeus amamiensis</i>		○					
		サキシマオオニジゴミムシダマシ	<i>Euhemicera sakishimensis</i>	○						
		リュウキュウスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum okinawanum</i>	○						
		カラカネチビキマワリモドキ	<i>Tetragonomenes palpaloides</i>	○						
	カミキリムシ科	ニセフトガタヒメカミキリ	<i>Ceresium unicolor pseudounicolor</i>	○				○		
		ゴマフサビカミキリ	<i>Ropica loochooana loochooana</i>	○			○			
		オキナワアヤモンチビカミキリ	<i>Sybra ordinata loochooana</i>	○			○			
		アトモンチビカミキリ	<i>Sybra oshimana</i>	○			○			
	ハムシ科	フタイロウリハムシ	<i>Aulacophora bicolor</i>	○						
		ウリハムシ	<i>Aulacophora indica</i>	○			○			
		ナガヒラタハムシ	<i>Brontispa longissima</i>	○						
		タテスジヒメジンガサハムシ	<i>Cassida circumdata</i>	○			○			
		ヒメカメノコハムシ	<i>Cassida piperata</i>	○			○			
		サツマイモヒサゴトビハムシ	<i>Chaetocnema confinis</i>	○						
		オキナワイモサルハムシ	<i>Colasposoma auripenne</i>	○						
		ヒロヒゲツツハムシ	<i>Diachus auratus</i>	○						
		ヨツモンカメノコハムシ	<i>Laccoptera quadrimaculata</i>	○			○			
		ネットイアカクビボソハムシ近似種	<i>Lema aff. lacertosa</i>				○			
		ヒメアカクビボソハムシ	<i>Lema rugifrons</i>	○						
		ヒゲナガゾウムシ科	ワタミヒゲナガゾウムシ	<i>Aracercus fasciculatus</i>	○	○		○		
	ギンネムヒゲナガゾウムシ		<i>Aracercus levipennis</i>				○	○		
	シロオビフトヒゲナガゾウムシ		<i>Eucorynus crassicornis</i>	○						
	イトヒゲナガゾウムシ		<i>Exillis japonicola</i>	○						
	キンケノミヒゲナガゾウムシ類似種		<i>Melanopsacus cf. kinke</i>			○				
	ツヤチビヒョウタンヒゲナガゾウムシ		<i>Notioxenus nitidus</i>	○						
	ミツギリゾウムシ科	ハスオビコブゾウムシ	<i>Desmidophorus crassus</i>	○						
	ゾウムシ科	オキナワクワゾウムシ	<i>Episomus mori</i>				○			
		マツオオキクイゾウムシ	<i>Macrorhyncholus crassiusculus</i>	○						
		ヨナグニアカアシカタゾウムシ	<i>Metapocyrtus yonagunianus</i>	○			○			
		ナガチビコフキゾウムシ	<i>Sitona cylindricollis</i>	○						
	オサゾウムシ科	シバオサゾウムシ	<i>Sphenophorus venatus vestitus</i>	○		○				
	ハチ目	(不明)	コバチ上科	Chalcidoidea gen. spp.		○	○			
		ヒメバチ科	ホウネンタワラチビアメバチ	<i>Charops bicolor</i>	○					
			クロモンアメバチ	<i>Dicamptus nigropictus</i>	○					
			ハラアカアブヒメバチ	<i>Diplazon laetatorius</i>	○					
			ミノオキイロヒラタヒメバチ類似種	<i>Xanthopimpla cf. clavata</i>	○			○		
		(不明) 註	ヒメバチ上科	Ichneumonoidea gen. spp.		○	○			
		コマユバチ科	ムナカタコウラマユバチ類似種	<i>Chelonus cf. munakatae</i>				○		
ヒメキイロコウラコマユバチ	<i>Phanerotoma planifrons</i>		○				○			

注：すでに確認されている科と重複する可能性があるため、科数に計上しない。

表 7. 12. 1-35 (7) 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季			秋季		
				任意	ライト	ピット	任意	ライト	ピット
ハチ目(続き)	アシプトコバチ科	キアシプトコバチ	<i>Brachymeria lasus</i>				○		
		ハエヤドリアシプトコバチ	<i>Brachymeria minuta</i>				○		
		ツヤオニアシプトコバチ類似種	<i>Dirhinus cf. himalayanus</i>				○		
	ドロバチ科	アカオビチビドロバチ	<i>Stenodynerus rufomaculatus</i>	○					
	コハナバチ科	クメジマコハナバチ	<i>Lasioglossum kumejimense</i>	○					
	コシプトハナバチ科	オキナワツヤハナバチ	<i>Ceratina okinawana</i>	○			○		
		オキナワクマバチ	<i>Xylocopa flavifrons</i>	○			○		
	ミツバチ科	セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>	○			○		
	アリ科	オオハリアリ	<i>Brachyponera chinensis</i>						○
		ミナミフトハリアリ	<i>Ectomyrmex</i> sp. B	○					
		ハリアリ亜科 ^註	Ponerini gen. spp.					○	
		ヨブシウロコアリ	<i>Strumigenys emmae</i>						○
		クロヒメアリ	<i>Monomorium chinense</i>	○		○	○		○
		ヒメアリ	<i>Monomorium intrudens</i>			○			○
		カドヒメアリ	<i>Monomorium sechellense</i>						○
		ツヤオオズアリ	<i>Pheidole megacephala</i>	○	○	○	○		○
		ナガオオズアリ	<i>Pheidole ryukyuensis</i>			○			○
		オオシワアリ	<i>Tetramorium bicarinatum</i>	○		○	○		○
		イカリゲシワアリ	<i>Tetramorium lanuginosum</i>			○			○
		サザナミシワアリ	<i>Tetramorium simillimum</i>				○		
		クボミシリアゲアリ	<i>Crematogaster vagula</i>	○					
		トゲハダカアリ	<i>Cardiocondyla</i> sp. A	○		○			
		ヒメハダカアリ	<i>Cardiocondyla tsukuyomi</i>	○					○
		キイロハダカアリ	<i>Cardiocondyla wroughtonii</i>			○			
		カドハダカアリ	<i>Cardiocondyla</i> sp. B			○			
		アミメアリ	<i>Pristomyrmex pungens</i>	○			○		
		フタフシアリ亜科 ^註	Myrmicinae gen. spp.			○			
		アワテコスカアリ	<i>Tapinoma melanocephalum</i>	○		○	○		○
		アシナガキアリ	<i>Anoplolepis gracilipes</i>	○		○	○		○
		ケブカアメイロアリ	<i>Nylanderia amia</i>	○		○			○
		リュウキュウアメイロアリ	<i>Nylanderia ryukyuensis</i>			○			○
	ヒゲナガアメイロアリ	<i>Paratrechina longicornis</i>	○		○	○		○	
	ホソウメマツオオアリ	<i>Camponotus bishamon</i>	○			○			
クロトゲアリ	<i>Polyrhachis dives</i>	○			○				
ヤマアリ亜科 ^註	Formicinae gen. spp.			○			○		
スズメバチ科	クロスジスズバチ	<i>Delta esuriens okinawae</i>				○			
	ヒメトックリバチモドキ	<i>Pachymenes yayeyamensis</i>				○			
	タイワンアシナガバチ	<i>Polistes formosanus</i>				○			
	オキナワチビアシナガバチ	<i>Ropalidia fasciata</i>	○			○			
ハエ目	キノコバエ科	シワバネキノコバエ	<i>Allactoneura cincta</i>	○					
	クロキノコバエ科	クロバネキノコバエ科	Sciaridae gen. spp.		○	○		○	
	ツノキノコバエ科	ヒゲタケカ亜科	Macrocerinae gen. sp.		○				
	タマバエ科	タマバエ科	Cecidomyiidae gen. sp.					○	
	チョウバエ科	チョウバエ科	Psychodidae gen. sp.				○	○	
	ニセケバエ科	ニセケバエ科	Scatopsidae gen. sp.		○				
	カ科	ヒトスジシマカ	<i>Stegomyia albopicta</i>	○			○		
	ヌカカ科	ヌカカ科	Ceratopogonidae gen. spp.		○	○		○	
	ユスリカ科	ミナミユスリカ	<i>Chironomus tainanus</i>					○	
		ユスリカ科	Chironomidae gen. spp.		○			○	
	ミズアブ科	アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i>				○		
		ヒメネグロミズアブ近似種	<i>Kolomania</i> aff. <i>Nipponensis</i>	○					
		ハラキンミズアブ	<i>Microchrysa flaviventris</i>	○	○		○	○	

注：すでに確認されている種と重複する可能性があるため、種数に計上しない。

表 7. 12. 1-35 (8) 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季			秋季		
				任意	ラト	ピット	任意	ラト	ピット
ハエ目(続き)	ノミバエ科	ノミバエ科	Phoridae gen. spp.		○	○		○	○
	ハナアブ科	クロマメヒラタアブ	<i>Paragus politus</i>	○					
		ツマキハイジマハナアブ	<i>Eumerus figurans</i>	○					
		ミナミキゴシハナアブ	<i>Eristalinus arvorum</i>	○			○	○	
		キゴシハナアブ	<i>Eristalinus quinquestriatus</i>				○		
		オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>	○					
		ミナミモモブトチビハナアブ	<i>Syritta thompsoni</i>	○					
	クロツヤバエ科	クロツヤバエ科	Lonchaeidae gen. sp.		○				
	ミバエ科	ウスモンケブカミバエ	<i>Dioxyna sororcula</i>	○					
		ナカグロナギナタミバエ	<i>Rhabdochaeta asteria</i>				○		
		ミカンコミバエ	<i>Bactrocera dorsalis</i>	○					
	ハネフリバエ科	ハネフリバエ科	Otitidae gen. sp.		○				
	ハモグリバエ科	ハモグリバエ科	Agromyzidae gen. spp.		○			○	
	キモグリバエ科	キモグリバエ科	Chloropidae gen. spp.			○		○	
	キイロコバエ科	キイロコバエ科	Chyromyidae gen. sp.		○				
	フンコバエ科	フンコバエ科	Sphaoceridae gen. spp.		○	○		○	○
	ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ	<i>Sepedon aenesceus</i>	○					
	ツヤホソバエ科	ヒトテンツヤホソバエ	<i>Sepsis monostigma</i>			○			
	ショウジョウバエ科	ショウジョウバエ科	Drosophilidae gen. spp.		○	○			○
	ミギワバエ科	ミギワバエ科	Ephyrididae gen. spp.		○			○	○
	ヒメイエバエ科	ヒメイエバエ科	Fanniidae gen. sp.			○			
	イエバエ科	ヒメセマダライエバエ	<i>Graphomya ruffibia</i>	○					
		チャバナヒメクロバエ	<i>Hydrotaca chalcogaster</i>	○					
		イエバエ	<i>Musca domestica</i>				○		
		イエバエ科	Muscidae gen. sp.			○			
	クロバエ科	トウキョウキンバエ	<i>Hemipyrellia ligurriens</i>	○					
		ミドリキンバエ	<i>Lucilia illustris</i>					○	
		ヒツジキンバエ	<i>Lucilia cuprina</i>	○					
		オビキンバエ	<i>Chrysomya megacephala</i>	○					
		ツマクロキンバエ	<i>Stomorhina obsoleta</i>	○					
	ニクバエ科	ニクバエ科	Sarcophagidae gen. sp.	○			○		○
	チョウ目	ハマキガ科	ウスコカクモンハマキ	<i>Adoxophyes dubia</i>	○				
チビカクモンハマキ			<i>Archips insulanus</i>		○				
マダラコケイロヒメハマキ類似種			<i>Herpystis cf. tinctoria</i>		○				
ホソバチビヒメハマキ			<i>Lobesia acolopa</i>	○					
カンシャシンクイ			<i>Tetramoera schistaceana</i>		○				
ハマキガ科			Tortricidae gen. sp.		○				
ヒロズコガ科		マエモンクロヒロズコガ	<i>Monopis monachella</i>		○				
		ホソヒメヒロズコガ	<i>Eudarcia dentata</i>					○	
		コイガ	<i>Tineola bisselliella</i>					○	
スガ科		コナガ	<i>Plutella xylostella</i>					○	
ニセマイコガ科		キイロマイコガ	<i>Stathmopoda auriferella</i>		○				
ミツボシキバガ科		ミツボシキバガ近似種	<i>Autosticha aff. modicella</i>	○	○			○	
カザリバガ科		カザリバガ科	Cosmopterigidae gen. spp.		○				
キバガ科		クロチビキバガ類似種	<i>Aproaerema cf. anthyllidella</i>		○				
		コフサキバガ	<i>Dichomeris acuminata</i>		○				
		クロヘリキバガ	<i>Mesophleps albilinella</i>		○				
		バクガ	<i>Sitotroga cerealella</i>					○	
キバガ科		キバガ科	Gelechiidae gen. spp.		○				

表 7. 12. 1-35 (9) 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季			秋季		
				任意	ライト	ピット	任意	ライト	ピット
チョウ目(続き)	メイガ科	カバイロトガリメイガ	<i>Endotricha theonalis</i>	○					
		トサカフトメイガ	<i>Locastra muscosalis</i>		○				
		コマエジロホソメイガ	<i>Polyocha diversella</i>	○	○			○	
		ビンガタホソメイガ	<i>Arivaca pulchra</i>	○	○				
		メイガ科	<i>Pyralidae gen. sp.</i>		○				
	ツトガ科	ウスチャツトガ	<i>Pseudocatharylla duplicella</i>						○
		シバツトガ	<i>Parapediasia teterella</i>	○	○		○	○	
		ツトガ	<i>Ancylolomia japonica</i>				○		
		アカヘリスカシクルマメイガ	<i>Autocharis amethystina</i>	○			○		
		シロオビノメイガ	<i>Spoladea recurvalis</i>	○	○		○		
		ナカオビノメイガ	<i>Hydriris ornatalis</i>	○			○		
		カクモンノメイガ	<i>Rehimena surusalis</i>		○				
		キオビノメイガ	<i>Omiodes diemenalis</i>	○					
		ミナミウコンノメイガ	<i>Pleuroptya sabinusalis</i>						○
		ワタノメイガ	<i>Haritalodes derogatus</i>		○				
		ワタヘリクロノメイガ	<i>Diaphania indica</i>	○			○	○	
		シロマダラノメイガ	<i>Glyphodes onycinalis</i>						○
		ワモンノメイガ	<i>Nomophila noctuella</i>	○	○				
		モンウスグロノメイガ	<i>Bradina geminalis</i>	○					
		マエキノメイガ	<i>Herpetogramma rude</i>				○		
ヘリグロノメイガ	<i>Herpetogramma cynarale</i>		○						
トリバガ科	タイワンシラホシトリバ	<i>Deuteroecopus socotranus</i>	○						
セゼリチョウ科	ユウレイセゼリ	<i>Dorbo cinnara</i>				○			
	チャバネセゼリ	<i>Pelopidas mathias oberthucri</i>				○			
シロチョウ科	モンシロチョウ	<i>Artogeia rapae crucivora</i>	○						
	キチョウ	<i>Eurema hecabe</i>	○			○			
シジミチョウ科	クロマダラソテツシジミ	<i>Chilades pandava pandava</i>	○						
	ウラナミシジミ	<i>Lampides boetieus</i>	○						
	タイワンクロボシシジミ	<i>Megisba malaya sikkima</i>	○						
	ヤマトシジミ	<i>Pseudozizeeria maha argia</i>	○			○			
	ヒメシルビアシジミ	<i>Zizina otis</i>				○			
タテハチョウ科	カバマダラ	<i>Anosia chrysippus chrysippus</i>				○			
	ツマムラサキマダラ	<i>Euploca mulciber barsine</i>	○						
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>	○			○			
	タテハモドキ	<i>Junonia almana</i>				○			
	アカタテハ	<i>Vanessa indica indica</i>	○						
シヤクガ科	オビベニホソシヤク	<i>Eumelea billavata insulata</i>	○						
	キュウシュウヒメシヤク	<i>Idaea kyushuensis</i>		○					
	ギンネムエダシヤク	<i>Macaria abydata</i>		○					
スズメガ科	オオスカシバ	<i>Cephonodes hylas</i>				○			
	クロホウジャク	<i>Macroglossum saga</i>	○						
ドクガ科	タイワンキドクガ	<i>Orvasca taiwana</i>	○						
ヒトリガ科	オキナワモンシロモドキ	<i>Pitasila okinawensis</i>	○						
	ハイイロヒトリ	<i>Cretonotos transiens koni</i>	○						
ヒトリモドキガ科	キイロヒトリモドキ	<i>Asota egens confinis</i>				○	○		
	イチジクヒトリモドキ	<i>Asota ficus</i>				○			
コブガ科	クロスジシロコブガ	<i>Nola taeniata</i>		○					
	ヒロバキノカワガ	<i>Giaura tortricoides</i>	○						
	マガタマリンガ	<i>Miaromima kobesi</i>				○	○		

表 7. 12. 1-35 (10) 現地確認種

日名	科名	和名	学名	春季			秋季		
				任意	ライト	ピット	任意	ライト	ピット
チョウ目(続き)	ヤガ科	ミナミチビアツバ	<i>Luceria oculalis</i>		○			○	
		ソトウスグロアツバ	<i>Hydrillodes lentalis</i>	○					
		ニセアカマエアツバ	<i>Simplicia xanthoma</i>					○	
		リュウキュウアカマエアツバ	<i>Simplicia cornicalis</i>	○					
		オキナワオオアカキリバ	<i>Rusicada albitibia</i>	○					
		カバイロオオアカキリバ	<i>Rusicada fulvida</i>		○				
		アシブトクチバ	<i>Parallelia stuposa</i>				○		
		ナカグロクチバ	<i>Grammodes geometrica</i>				○	○	
		サンカククチバ	<i>Trigonodes hyppasia hyppasia</i>				○		
		マダラウスムラサキクチバ	<i>Ericcia</i> sp. 2				○		
		ネッタイキクキンウワバ	<i>Thysanoplusia orichalcea</i>	○	○				
		ナカジロシタバ	<i>Aedia leucomelas</i>	○					
		オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera armigera</i>	○					
		タバコガ	<i>Helicoverpa assulta assulta</i>				○		
		オオホシミミヨトウ	<i>Condica illecta</i>				○	○	
		ハスモンヨトウ	<i>Spodoptera litura</i>	○		○			
		クシナシズキリヨトウ	<i>Spodoptera ciliium</i>					○	
		クシヒゲズキリヨトウ	<i>Spodoptera pecten</i>			○			
		リュウキュウウスイロヨトウ	<i>Athetis placida</i>					○	
		ヒメサビズキヨトウ	<i>Athetis stellata</i>			○			
		キシタキリガ近似種	<i>Cosmia</i> aff. <i>moderata</i>				○		
		タマナヤガ	<i>Agrotis ipsilon</i>			○			
		(不明) 注	チョウ目 注	LEPIDOPTERA gen. sp.			○		
15 H	140 科	456 種	239 種	141 種	55 種	150 種	60 種	42 種	
			15 H 128 科 360 種			9 H 86 科 220 種			

注：すでに確認されている科(種)と重複する可能性があるため、科数(種数)に計上しない。

表 7. 12. 1-36(1) ライトトラップ法結果

目名	科名	和名	春季			秋季		
			地点 1	地点 2	地点 3	地点 1	地点 2	地点 3
シロアリ目	ミゾガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ属	17	105	16			
チャタテムシ目	チャタテ科	チャタテ科	3	1				
カメムシ目	ヨコバイ科	CoIoana 属	1	6	2			
		ヨコバイ科					1	
	ウンカ科	ヒメトビウンカ類似種				1		
		クロフツノウンカ					1	
	カスミカメムシ科	サキシマキイロツヤカスミカメ類似種	1	1				
		セスジクロツヤカスミカメ	6		1			
		リュウキュウテングカスミカメ		1				
		ウスオビヒメカスミカメ		1				
		コミドリチビトピカスミカメ		7	2			
		アカヒメチビカスミカメ	38	4				
		ムモンスカシチビカスミカメ	2	11	3	1	2	
		ムナグロキイロカスミカメ			1			
	ハナカメムシ科	クビレヤサハナカメムシ	19	16	2			
		ケシハナカメムシ類似種			1			
	サシガメ科	キボシサシガメ						1
		クロサシガメ				1		1
	ヒラタカメムシ科	バラオヒラタカメムシ						1
	ヒョウタンナガカメムシ科	ヤスマツチビナガカメムシ	3	4				
		モンクロナガカメムシ		1	2			
		ミナミヒョウタンナガカメムシ			1		3	
		イチゴチビナガカメムシ			1			
		オキナワシロヘリナガカメムシ		1				
	ツチカメムシ科	ヒメツチカメムシ	1	6	2			
アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	ヤマトクサカゲロウ			1			
コウチュウ目	オサムシ科	キイロチビゴモクムシ	1	1				
		コアトワアオゴミムシ			1			
		オオアオモリヒラタゴミムシ		1				
		ヒロアオヘリホソゴミムシ	2	3	3			
		クロオビコムズギワゴミムシ	43	8	41			
		ウスイロコムズギワゴミムシ類似種		2				
		ダイミョウツブゴミムシ			1			
		ミナミチビムズギワゴミムシ			1			
		ミドリマメゴモクムシ			6			
		イツホシマメゴモクムシ	33	8	17	13	4	5
		シラキマメゴモクムシ	1	2				
		ヨツボシチビアトキリゴミムシ			1			
		ミナミチビカワゴミムシ	2		2			
		クリイロコムズギワゴミムシ		2	1			
	ゲンゴロウ科	タイワンセスジゲンゴロウ					2	
		ウスイロシマゲンゴロウ	1					
		アマミチビゲンゴロウ		1		2	1	
		サビモンマルチビゲンゴロウ			1			
	ガムシ科	ウスモンケンガムシ類似種	3		4		1	
		ウスグロヒラタガムシ	1		1			
		ルイスヒラタガムシ			1			
		マグソガムシ類似種	6	1	1			
		チビマルガムシ		2	2			
		ミナミヒメガムシ				1		
		ヒメガムシ			1			

表 7. 12. 1-36 (2) ライトトラップ法結果

目名	科名	和名	春季			秋季		
			地点 1	地点 2	地点 3	地点 1	地点 2	地点 3
コウチュウ目 (続き)	ハネカクシ科	ウスアカヒゲブトハネカクシ	3	5	24			
		フタホシシリグロハネカクシ類似種			1			
		キバネセミゾハネカクシ	46	8	1			
		ニセユミセミゾハネカクシ	5	3	6	6	9	
		チビニセユミセミゾハネカクシ	1	4	1	1		
		ミナミチビマルクビハネカクシ	1					
		ヒメトガリハネカクシ	2	2	8			
		クロズトガリハネカクシ	65	91	92	1		
		クロズマグソセスジハネカクシ	3					
		アカセスジハネカクシ	4	7	2			
		クロズセスジハネカクシ			15			
		ドウガネコガシラハネカクシ	4	4	3			1
		カクコガシラハネカクシ				1		
		クビボソハネカクシ	6	3	12			
		キバネクビボソハネカクシ	13		4			
		チビクビボソハネカクシ				1		
		クロズシリホソハネカクシ	8	1				
		アリヅカムシ亜科		1				
		アツバコガネ科	フチトリアツバコガネ	2	2			
		コガネムシ科	ヤノスジコガネ日本亜種	1	2			
オキナワカンショコガネ	1			1				
オオニセツツマグソコガネ	4		1	23				
オキナワビロウドコガネ	8		3	2				
ダエンマルトゲムシ科	リュウキュウダエンマルトゲムシ		1					
コメツキムシ科	スジマダラチビコメツキ			5				
	キアシクロムナボソコメツキ近似種	1		2				
	ヒサマツチビコメツキ					1		
ゲシキスイ科	ウスチャデオキスイ					2		
	デメヒラタケシキスイ		2	2				
	ツヤチビヒラタケシキスイ		1					
	モンチビヒラタケシキスイ			1				
	マルヒラタケシキスイ	4						
	ヨツモンキバケシキスイ	4	17	4	1			
ネスイムシ科	トビイロデオネスイ	1	1	1		1		
ホソヒラタムシ科	ミツモンセマルヒラタムシ	2	3	3				
	ヒメフタトゲホソヒラタムシ類似種	1	1					
	ミツカドコナヒラタムシ類似種	1	1	6				
キシムシ科	マルガタキシ	67	49	29	4	6		
テントウムシダマシ科	ヒゲブテントウダマシ		1					
テントウムシ科	アマミキイロテントウ	2	3					
コキノコムシ科	ウスモンヒメロキノコムシ	3						
	チャイロコキノコムシ	3	4					
カミキリモドキ科	ハイイロカミキリモドキ		1					
	ハラグロランプカミキリモドキ	1						
	ツماغロカミキリモドキ	2	3					
アリモドキ科	ムネアカアリモドキ		1					
	オキナワホソクビアリモドキ	1	1	1				
	フタモンクビボソムシ	1						
ニセクビボソムシ科	マダラニセクビボソムシ類似種	2		1				
チビキカワムシ科	アマミクチキムシダマシ類似種		1					
ゴミムシダマシ科	アマミホソゴミムシダマシ	1						
カミキリムシ科	ニセフトガタヒメカミキリ				1			
ヒゲナガゾウムシ科	ワタミヒゲナガゾウムシ		1					
	ギンネムヒゲナガゾウムシ				1			

表 7. 12. 1-36 (3) ライトトラップ法結果

目名	科名	和名	春季			秋季		
			地点 1	地点 2	地点 3	地点 1	地点 2	地点 3
ハチ目	(不明)	コバチ上科		5	1			
	(不明)	ヒメバチ上科	1					
	コマユバチ科	ヒメキイロコウラコマユバチ				1		
	アリ科	ハリアリ亜科				3		1
ツヤオオズアリ			2					
フタフシアリ亜科 ^注			3	3 ^注	27			
	ヤマアリ亜科		4	6	2	2	2	
ハエ目	クロキノコバエ科	クロバネキノコバエ科	2	1	1	1		
	ツノキノコバエ科	ヒゲタケカ亜科			1			
	チョウバエ科	チョウバエ科				1	1	
	ニセケバエ科	ニセケバエ科			1			
	ヌカカ科	ヌカカ科	11	5	10	6	5	
	ユスリカ科	ミナミユスリカ					2	14
		ユスリカ科		4	17	6	77	13
	ミズアブ科	ハラキンミズアブ	3	1	9	1	1	4
	ノミバエ科	ノミバエ科		2		3		
	ハナアブ科	ミナミキゴシハナアブ						1
	クロツヤバエ科	クロツヤバエ科		1				
	ハネフリバエ科	ハネフリバエ科			2			
	ハモグリバエ科	ハモグリバエ科		1	3		1	1
	キモグリバエ科	キモグリバエ科				3	2	
	キイロコバエ科	キイロコバエ科			2			
	ブンコバエ科	ブンコバエ科	4	5	9	1	4	
	ショウジョウバエ科	ショウジョウバエ科	2					
ミギワバエ科	ミギワバエ科	1	4	1		6	1	
チョウ目	ハマキガ科	チビカクモンハマキ	1					
		マダラコケイロヒメハマキ類似種	1					
		カンシャシンクイ	1					
		ハマキガ科	2					
	ヒロズコガ科	マエモンクロヒロズコガ	2					
		ホソヒメヒロズコガ				1		
		コイガ				1		
	スガ科	コナガ				1		
	ニセマイコガ科	キイロマイコガ	1	1				
	ミツボシキバガ科	ミツボシキバガ近似種			3		1	
	カザリバガ科	カザリバガ科	1	4				
	キバガ科	クロチビキバガ類似種	19	10				
		コフサキバガ	2	3				
		クロヘリキバガ	1					
		バクガ				1		
		キバガ科	13	2	6			
	メイガ科	トサカフトメイガ	1					
		コマエジロホソメイガ		2			1	
		ビンガタホソメイガ		4				
		メイガ科			1			
	ツトガ科	ウスチャツトガ					1	
		シバツトガ		2	11		1	
		シロオビノメイガ			2			
カクモンノメイガ			1					
ワタノメイガ		1						
ミナミウコンノメイガ						1		
ワモンノメイガ		1		1				
ヘリグロノメイガ		1						

注：すでに確認されている種と重複する可能性があるため、種数に計上しない。

表 7. 12. 1-36 (4) ライトトラップ法結果

目名	科名	和名	春季			秋季			
			地点 1	地点 2	地点 3	地点 1	地点 2	地点 3	
チョウ目(続き)	ツトガ科(続き)	ワタヘリクロノメイガ						1	
		シロマダラノメイガ						1	
	シャクガ科	キュウシュウヒメシャク	2		1				
		ギンネムエダシャク			1				
	コブガ科	クロスジシロコブガ	1						
	ヒトリモドキガ科	キイロヒトリモドキ						1	
	コブガ科	マガタマリンガ					1	1	
	ヤガ科	ミナミチビアツバ		2			3		
		ニセアカマエアツバ						1	
		カバイロオオアカキリバ	1						
		ナカグロクチバ					1		
		ネットアイキクキンウワバ			1				
		クシヒゲスジキリヨトウ		1					
		ヒメサビスジヨトウ	1						
		オオホシミヨトウ					1	3	
		クシナシスジキリヨトウ							2
リュウキュウウスイロヨトウ								4	
	タマナヤガ			1					
8 日	68 科	175 種	83 種 545 個体	82 種 511 個体	80 種 473 個体	30 種 139 個体	31 種 81 個体	21 種 47 個体	

表 7.12.1-37(1) ピットフォールトラップ法結果

目名	科名	和名	春季			秋季		
			地点1	地点2	地点3	地点1	地点2	地点3
ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	オキナワチャバネゴキブリ						24
		ヒメチャバネゴキブリ			20			
		フタテンコバネゴキブリ	8	27	15	58	663	88
		ヒメツチゴキブリ		5			1	
		アミメヒラタゴキブリ	1					
バッタ目	コオロギ科	ネットタイオカメコオロギ						1
		タイワンエンマコオロギ					5	7
		ナツノツブレサセコオロギ						3
	ヒバリモドキ科	ネットイシバズ		4	4			1
ヒシバッタ科	ヒメヒシバッタ			2				
バッタ科	ショウリョウバッタ		1					
ハサミムシ目	ハサミムシ科	コヒゲジロハサミムシ			1			1
アザミウマ目	クダアザミウマ科	クダアザミウマ科	1					
カメムシ目	ツノゼミ科	マルツノゼミ					1	
	ヨコバイ科	Draeculacephala 属			1			
	カスミカメムシ科	アカヒメチビカスミカメ	7					
	サシガメ科	モモブトトビイロサシガメ			3			
		トビイロサシガメ属 ^註			3		2	
	ヒョウタンナガカメムシ科	ヤスマツチビナガカメムシ	2					
		モンクロナガカメムシ						1
		ヒョウタンナガカメムシ科 ^註	4					
	オオメガナカメムシ科	チビオオメガナカメムシ						4
	ホソヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ科			1			
コウチュウ目	オサムシ科	ケウスゴモクムシ			1			
	ハネカクシ科	コバネアシベセスジハネカクシ	4		3			12
		ニセコムセミゾハネカクシ						1
		チビクビボソハネカクシ						1
	コガネムシ科	タイケンマグソコガネ	1		5			
		キタヤマホソケシマグソコガネ						2
	コメツキムシ科	スジマダラチビコメツキ		3	1			1
		ハマベヒメサビキコリ			3			
		キアシクロムナボソコメツキ近似種			7			
		ヒサマツチビコメツキ						2
	ケシキスイ科	クリイロデオキスイ				1		
		モンチビヒラタケシキスイ	20					
		マルキマダラケシキスイ	3					
		カタベニデオキスイ	1					
	テントウムシ科	ニジュウヤホシテントウ			1			
コキノコムシ科	チャイロコキノコムシ			1				
ヒゲナガゾウムシ科	キンケノミヒゲナガゾウムシ類似種	1						
オサゾウムシ科	シバオサゾウムシ		4					
ハチ目	(不明)	コバチ上科	5	3	4			
	(不明)	ヒメバチ上科	1					
	アリ科	オオハリアリ				1	1	
		ヨフシウロコアリ						1
		クロヒメアリ	13	1		11	1	10
		ヒメアリ	4			54	1	
		カドヒメアリ						1
		ツヤオオズアリ	11	798	25	13	6823	621
		ナガオオズアリ	63		1	38		
		オオシワアリ			10			14
イカリゲシワアリ	20		1	155				

注：すでに確認されている種と重複する可能性があるため、種数に計上しない。

表 7.12.1-37(2) ピットフォールトラップ法結果

日名	科名	和名	春季			秋季		
			地点1	地点2	地点3	地点1	地点2	地点3
ハチ目(続き)	アリ科(続き)	トゲハダカアリ		2	3			
		ヒメハダカアリ					2	1
		キイロハダカアリ		1				
		カドハダカアリ			3			
		アワテコヌカアリ	36	1		850		1
		アシナガキアリ			17	38		1
		ケブカアメイロアリ	78	1	68	72		55
		リュウキュウアメイロアリ	23			56		27
				41	3		42	
ハエ目	クロキノコバエ科	クロバネキノコバエ科			2	2		
	タマバエ科	タマバエ科						1
	チョウバエ科	チョウバエ科						1
	ヌカカ科	ヌカカ科			1			
	ノミバエ科	ノミバエ科	5	1	1	1		1
	キモグリバエ科	キモグリバエ科			3			
	フンコバエ科	フンコバエ科		1	1			5
	ツヤホソバエ科	ヒトテンツヤホソバエ			1			
	ショウジョウバエ科	ショウジョウバエ科	19	7	1	5	5	1
	ミギワバエ科	ミギワバエ科					3	
	ヒメイエバエ科	ヒメイエバエ科	6					
	イエバエ科	イエバエ科			3			
	ニクバエ科	ニクバエ科						1
チョウ目	ヤガ科	ハスモンヨトウ		1	3			
	(不明) ^注	チョウ目	3					
9日	40科	74種	26種 340個体	18種 864個体	35種 258個体	16種 1358個体	12種 7508個体	32種 933個体

注：すでに確認されている科と重複する可能性があるため、科数に計上しない。

f. 陸生甲殻類

現地調査で確認された陸生甲殻類の一覧を表 7. 12. 1-38 に示す。

現地調査の結果、春季、夏季、秋季ともに 10 種、合計 2 目 5 科 11 種の陸生甲殻類が確認された。

リュウキュウフナムシは海岸のテトラポット上、オオナキオカヤドカリは護岸際の石や漂着ゴミの下、海岸林縁の地表、オカヤドカリは海岸林内の地表、野球場のフェンス沿い、ゴミ集積所周辺、その他のオカヤドカリ類 3 種及びヤエヤマヒメオカガニ、イワトビベンケイガニは主に砂浜後背や護岸際の石や漂着ゴミの下、オカガニは側溝内の泥溜まり周辺、ツノメガニ、ナンヨウスナガニは砂浜上で確認された。

表 7. 12. 1-38 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季	夏季	秋季
等脚目	フナムシ科	リュウキュウフナムシ	<i>Ligia ryukyuensis</i>	○	○	○
十脚目	オカヤドカリ科	オオナキオカヤドカリ	<i>Coenobita brevimanus</i>	○	○	○
		オカヤドカリ	<i>Coenobita cavipes</i>	○	○	○
		ムラサキオカヤドカリ	<i>Coenobita purpureus</i>	○	○	○
		ナキオカヤドカリ	<i>Coenobita rugosus</i>	○	○	○
		コムラサキオカヤドカリ	<i>Coenobita violascens</i>	○	○	○
	オカガニ科	オカガニ	<i>Tuerkayana hirtipes</i>	○	○	
		ヤエヤマヒメオカガニ	<i>Epigrapsus politus</i>	○	○	○
	ベンケイガニ科	イワトビベンケイガニ	<i>Metasesarma obesum</i>	○	○	○
	スナガニ科	ツノメガニ	<i>Ocypode ceratophthalmus</i>	○		○
		ナンヨウスナガニ	<i>Ocypode sinensis</i>		○	○
2 目	5 科	11 種		10 種	10 種	10 種

g. 陸産貝類

現地調査で確認された陸産貝類の一覧を表 7. 12. 1-39 に示す。

現地調査の結果、春季、秋季ともに 8 種、合計 1 目 7 科 9 種の陸産貝類が確認された。

主に、ケショウオカモノアラガイ、アジアベッコウは草地又は荒地の地表、アフリカマイマイはゴミ集積所周辺、ホソオカチョウジガイ、ナハキビ、ソメワケダワラガイは林縁又は林内の地表、ヒメコハクガイは海岸の石表面、オキナワウスカワマイマイ、オナジマイマイは林縁及び草地の植物上で確認された。

表 7. 12. 1-39 現地確認種

目名	科名	和名	学名	春季	秋季
マイ マイ目	オカモノアラガイ科	ケショウオカモノアラガイ	<i>Succinea</i> sp. 2	○	○
	アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ	<i>Achatina fulica</i>		○
	オカチョウジガイ科	ホソオカチョウジガイ	<i>Allopeas pyrgula</i>	○	○
	コハクガイ科	ヒメコハクガイ	<i>Hawaiiia minuscula</i>	○	
	ベッコウマイマイ科	アジアベッコウ	<i>Macrochlamys</i> sp.	○	○
		ナハキビ	<i>Parakaliella nahaensis</i>	○	○
	オナジマイマイ科	オキナワウスカワマイマイ	<i>Acusta despecta despecta</i>	○	○
		オナジマイマイ	<i>Bradybaena similaris</i>	○	○
タワラガイ科	ソメワケダワラガイ	<i>Indoennea bicolor</i>	○	○	
1 目	7 科	9 種		8 種	8 種

2) 重要な動物種の分布及び生息状況

① 文献その他の資料調査

文献調査での重要な動物種の一覧を表 7. 12. 1-40 に示す。

文献記録種の中から抽出した結果、28 種の重要な動物種が該当した。

表7. 12. 1-40 文献調査での重要な動物種

分類	和名	基準法令・文献及びカテゴリー区分					
		天然 記念物	種の 保存法	県 希少	環境省 RL	干潟 RDB	沖縄県 RDB
哺乳類	ワタセジネズミ	—	—	—	準絶滅危惧		準絶滅危惧
	オリオオコウモリ	—	—	—	—		準絶滅危惧
	オキナワコキクガシラコウモリ	—	国内希少	—	絶滅危惧 IB 類		絶滅危惧 IB 類
鳥類	カラスバト	国指定	—	—	準絶滅危惧		絶滅危惧 II 類
	チュウサギ	—	—	—	準絶滅危惧		準絶滅危惧
	マミジロアジサシ	—	—	—	—		準絶滅危惧
	ベニアジサシ	—	—	—	絶滅危惧 II 類		絶滅危惧 II 類
	エリグロアジサシ	—	—	—	絶滅危惧 II 類		絶滅危惧 II 類
	ミサゴ	—	—	—	準絶滅危惧		準絶滅危惧
	ツミ ^{注1}	—	—	—	—		情報不足
	オオコノハズク	—	—	—	絶滅危惧 II 類		絶滅危惧 II 類
	アオバズク	—	—	—	—		準絶滅危惧
	カワセミ	—	—	—	—		準絶滅危惧
	コゲラ	—	—	—	—		準絶滅危惧
	ダイトウウグイス ^{注2}	—	—	—	情報不足		—
	爬虫類	クロイワトカゲモドキ	県指定	国内希少	—	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 II 類
オキナワキノボリトカゲ ^{注3}		—	—	—	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 II 類	
アマミタカチホヘビ		—	—	—	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ハイ		—	—	—	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
イジマウミヘビ		—	—	—	絶滅危惧 II 類	—	
昆虫類	クロイワゼミ	—	—	—	絶滅危惧 II 類	準絶滅危惧	
	イワカワシジミ	—	—	—	準絶滅危惧	—	
	コノハチョウ	県指定	—	—	準絶滅危惧	—	
	リュウキュウウラナミジヤノメ	—	—	—	準絶滅危惧	—	
陸生 甲殻類	オカヤドカリ	国指定	—	—	—	—	
	ベンケイガニ	—	—	—	—	絶滅危惧 II 類	
陸産 貝類	イトマンマイマイ	—	—	—	絶滅危惧 II 類 ^{注4}	絶滅危惧 I 類	
	パンダナマイマイ	—	—	—	—	準絶滅危惧	
合計	28 種	4 種	2 種	0 種	19 種	1 種	21 種

注1：亜種リュウキュウツミで掲載されていたが、現在の知見では沖縄島には当該亜種が分布する。

2：種ウグイスで掲載されていたが、当該亜種の可能性がある。

3：種キノボリトカゲで掲載されていたが、沖縄島には当該亜種が分布する。

4：別称イトマンケマイマイで掲載されている。

5：/は該当しないことを示す。

② 現地調査

現地調査での重要な陸域動物の一覧を表 7. 12. 1-41(1)～(2)に示す。

現地確認種の中から抽出した結果、3種の哺乳類、5種の鳥類、3種の昆虫類、6種の陸生甲殻類が該当した。なお、爬虫類、両生類、陸産貝類は抽出されなかった。

重要な陸域動物の概要を表 7. 12. 1-42(1)～(17)、確認位置を図 7. 12. 1-9～図 7. 12. 1-12に示す。

表 7. 12. 1-41(1) 現地調査での重要な陸域動物

分類群	和名	基準法令・文献及びカテゴリー区分					沖縄県 RDB
		天然記念物	種の保存法	県希少	環境省 RL	干潟 RDB	
哺乳類	ワタセジネズミ	—	—	—	準絶滅危惧	/	準絶滅危惧
	ジャコウネズミ	—	—	—	—		情報不足
	オリイオオコウモリ	—	—	—	—		準絶滅危惧
鳥類	シロチドリ	—	—	—	絶滅危惧 II 類		絶滅危惧 II 類
	メダイチドリ	—	国際希少	—	—		—
	オオソリハシシギ	—	国際希少	—	絶滅危惧 II 類		絶滅危惧 II 類
	コアジサシ	—	—	—	絶滅危惧 II 類		絶滅危惧 II 類
	ミサゴ	—	—	—	準絶滅危惧		準絶滅危惧
	昆虫類	サンゴアメンボ	—	—	—		準絶滅危惧
	サンゴミズギワカメムシ	—	—	—	—		準絶滅危惧
	ハイイロイボサシガメ	—	—	—	準絶滅危惧	—	
陸生甲殻類	オオナキオカヤドカリ	国指定	—	—	準絶滅危惧	—	—
	オカヤドカリ	国指定	—	—	—	—	—
	ムラサキオカヤドカリ	国指定	—	—	—	—	—
	ナキオカヤドカリ	国指定	—	—	—	—	—
	コムラサキオカヤドカリ	国指定	—	—	準絶滅危惧	準絶滅危惧	—
	イワトビベンケイガニ	—	—	—	—	—	準絶滅危惧
合計	17 種	5 種	2 種	0 種	9 種	1 種	10 種

注：/は該当しないことを示す。

表 7. 12. 1-41(2) 現地調査での重要な陸域動物

分類群	和名	調査時期			
		冬季	春季	夏季	秋季
哺乳類	ワタセジネズミ	/	○	/	○
	ジャコウネズミ		○		○
	オリイオオコウモリ		○		○
鳥類	シロチドリ	○	—	—	○
	メダイチドリ	○	—	—	○
	オオソリハシシギ	—	○	—	—
	コアジサシ	—	○	—	—
	ミサゴ	○	—	—	—
	昆虫類	サンゴアメンボ	/	—	/
サンゴミズギワカメムシ	○	—			
ハイイロイボサシガメ	○	○			
陸生甲殻類	オオナキオカヤドカリ	/	○	○	○
	オカヤドカリ		○	○	○
	ムラサキオカヤドカリ		○	○	○
	ナキオカヤドカリ		○	○	○
	コムラサキオカヤドカリ		○	○	○
	イワトビベンケイガニ		○	○	○
	合計		17 種	3 種	13 種

注：/は該当しないことを示す。

表 7.12.1-42(1) 重要な陸域動物の概要(哺乳類：ワタセジネズミ)


<p>和名:ワタセジネズミ 学名:<i>Crocidura watasei</i> 分類:モグラ目 トガリネズミ科</p>	 <p>現地撮影(捕獲個体)</p>
<p>【指定状況】 環境省 RL :準絶滅危惧 沖縄県 RDB:準絶滅危惧</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に6地点6個体、秋季に2地点2個体を確認した。 路上で轢かれた死体や草地内に設置した生捕り式罠により確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 奄美諸島・沖縄諸島の島々に広く分布する日本固有種である。沖縄島内では場所によってはサトウキビ畑や低地の草地に比較的普通に見られるが、それ以外の県内島嶼ではあまり見つかっていない。小型で、頭胴長54~74mm、尾長47~60mmで雌雄差はない。腹面は淡灰褐色でまれに黄みを帯びる。尾は同所的に生息するジャコウネズミに比べて細長い。河畔のヤブや草地・耕地・低山の低木林等に生息し、小型昆虫類・クモ類を捕食する。石の間や物かげに巣を作り、周年繁殖する。2~4頭の仔を産む。 出典1:「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版(動物編)― レッドデータおきなわ ―」(2017年、沖縄県) 2:「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物―レッドデータブック―1 哺乳類」(2002年、環境省自然環境局野生生物課) 3:「日本の哺乳類 改訂版」(2005年、東海大学出版会)</p>	

表 7.12.1-42(2) 重要な陸域動物の概要(哺乳類：ジャコウネズミ)


<p>和名:ジャコウネズミ 学名:<i>Suncus murinus</i> 分類:モグラ目 トガリネズミ科</p>	 <p>現地撮影(捕獲個体)</p>
<p>【指定状況】 沖縄県 RDB:情報不足</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に8地点8個体、秋季に8地点10個体を確認した。 主にゴミ集積所周辺・森林・海岸・建物周辺で、目視・生捕り式罠・無人撮影装置により確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内には移入された個体群が長崎県や鹿児島県の一部にも生息していたが、現在は絶滅している。国内の個体群のうち琉球列島のものは自然分布の可能性があり、少なくとも石垣島と宮古島の地層からは化石が出土している。国外ではインドから東南アジア、台湾を原産地とするが、アフリカや太平洋島嶼地域まで人為的に分布する。頭胴長110~160mmで、吻が長く、触毛が発達し、尾にも毛がまばらに生えている。体側に麝香腺があり、独特の臭いがする。市街地の人家の床下、農耕地周辺、草地、河畔などに生息する。昆虫類・ミミズなどを捕食する。一年を通じて繁殖し、妊娠期間31日、1~6頭の仔を産む。 出典1:「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版(動物編)― レッドデータおきなわ ―」(2017年、沖縄県) 2:「日本の哺乳類 改訂版」(2005年、東海大学出版会)</p>	

表 7.12.1-42(3) 重要な陸域動物の概要(哺乳類：オリオオコウモリ)



<p>和名:オリオオコウモリ 学名:<i>Pteropus dasymallus inopinatus</i> 分類:コウモリ目 オオコウモリ科</p>	 <p>現地撮影(食痕)</p>  <p>出典:「日本の哺乳類 改訂版」 (2005、阿部ほか、東海大学出版会)</p>
<p>【指定状況】 沖縄県 RDB:準絶滅危惧</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に 27 地点、秋季に 3 地点を確認した。 道路や建物周辺のももたまなの下で食痕を確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 日本と台湾に生息するクビワオオコウモリ <i>Pteropus dasymallus</i> のうちの沖縄島と近隣島嶼に分布する亜種である。前腕長 130~147mm、体毛は褐色味を帯びており、頸部は幅広い黄味の明るい毛帯で取り巻かれる。日中は林内の高い枝にぶら下がって休息し、夜間に樹木のある環境に移動して果実や花蜜を食べる。住宅地や公園もエサ場として利用する。5~6 月頃に、1 頭の仔を産む。仔は 4~5 カ月で親から独立する。 出典 1:「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版(動物編)ー レッドデータおきなわ ー」(2017 年、沖縄県) 2:「日本の哺乳類 改訂版」(2005 年、東海大学出版会)</p>	

表 7.12.1-42(4) 重要な陸域動物の概要(鳥類：シロチドリ)


<p>和名:シロチドリ 学名:<i>Charadrius alexandrinus dealbatus</i> 分類:チドリ目 チドリ科</p>	
<p>【指定状況】 環境省 RL :絶滅危惧 II 類 沖縄県 RDB:絶滅危惧 II 類</p>	<p>現地撮影</p>
<p>【確認状況】 現地調査で冬季に 1 地点 1 個体、秋季に 2 地点 3 個体を確認した。 干潟や野球場の芝地で採餌する個体を目撃した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内には留鳥として広く分布するが、北日本には夏鳥として渡来し、関東地方以西には越冬個体が多い。県内では冬季に渡来する個体が見られ、数は格段に多くなる。国外では中国の南東部や南部などに広く分布する。全長 17cm。成鳥の上面は灰褐色で、雄は頭と胸のわきに黒色があるが、雌は褐色である。下面は白色で、くちばしと脚は黒色味がある。河口・砂浜・干潟・河川・埋立地などに生息し、水生昆虫・ミミズなどの小動物を食べる。繁殖期は 4～7 月で、地上営巣性であり、約 3 週間で孵化する。育雛期に巣やヒナに人や犬などが近づくと、親鳥はケガをしたようにふるまい(擬傷行動)、自分に注意を引きつけてヒナを守る。ピュル、ピュルと鳴き、警戒時はピュイ、とかポイツと鳴く。 出典 1 :「改訂版 沖縄の野鳥」(2010 年、沖縄野鳥研究会編) 2 :「日本動物大百科〈全 11 巻〉 第 3 巻 鳥類 I」(1996 年、日高敏隆) 3 :「日本の野鳥 590」(2000 年、真木広造・大西敏一)</p>	

表 7.12.1-42(5) 重要な陸域動物の概要(鳥類：メダイチドリ)


<p>和名:メダイチドリ 学名:<i>Charadrius mongolus stegmanni</i> 分類:チドリ目 チドリ科</p>	
<p>【指定状況】 種の保存法:国際希少</p>	<p>出典:「改訂版 沖縄の野鳥」 (2010 年、沖縄野鳥研究会編)</p>
<p>【確認状況】 現地調査で冬季に 1 地点 8 個体、秋季に 1 地点 3 個体を確認した。 野球場の芝地で採餌する個体を目撃した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内には全国的に旅鳥として渡来する。県内には冬季に渡来し、各地で普通に見られる。国外ではシベリアからアラスカにかけての草原地帯で繁殖し、東南アジア・インド・中東などで越冬する。全長 20cm。雌雄ほぼ同色。成鳥夏羽では脚は暗緑色を呈し、胸には幅広のレンガ色の帯がある。冬羽では胸の色は褐色になり、幅が細くなる。干潟・砂浜・河口・河川などに生息し、ミミズ・甲殻類・昆虫類などの小動物を食べる。クリリ、クリリと鳴く。 出典 1 :「改訂版 沖縄の野鳥」(2010 年、沖縄野鳥研究会編) 2 :「日本動物大百科〈全 11 巻〉 第 3 巻 鳥類 I」(1996 年、日高敏隆) 3 :「日本の野鳥 590」(2000 年、真木広造・大西敏一)</p>	

表 7.12.1-42(6) 重要な陸域動物の概要(鳥類：オオソリハシシギ)


<p>和名:オオソリハシシギ 学名:<i>Limosa lapponica baueri</i> 分類:チドリ目 シギ科</p>	 <p style="text-align: center;">現地撮影</p>
<p>【指定状況】 種の保存法:国際希少 環境省 RL :絶滅危惧 II 類 沖縄県 RDB:絶滅危惧 II 類</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に 1 地点 1 個体を確認した。 海岸近くの上空を飛翔する個体を目撃した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内では全国的に旅鳥として渡来する。県内では旅鳥及び一部冬鳥として渡来する。国外ではユーラシアの北部で広く繁殖し、アフリカ、東南アジア、オーストラリアなどで越冬する。全長約 41cm。雌雄ほぼ同色。くちばしが長く上に反り、脚は黒色をおび、短い。夏羽は首や胸、腹が赤褐色で、体の上面は赤褐色と白黒のまだら模様を呈する。冬羽は上面が灰褐色で、脇には褐色の横斑がある。主に干潟や砂浜などの海岸や河川などの湿地に生息し、水中をくちばしで探るなどして貝類、環形動物、甲殻類、昆虫類、魚類、種子などを食べる。ケッケツと鳴く。 出典 1:「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版(動物編)ー レッドデータおきなわ ー」(2017 年、沖縄県) 2:「改訂版 沖縄の野鳥」(2010 年、沖縄野鳥研究会編) 3:「日本の野鳥 590」(2000 年、真木広造・大西敏一) 4:「レッドデータブック 2014 2 (鳥類)」(2014 年、環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編)</p>	

表 7.12.1-42(7) 重要な陸域動物の概要(鳥類：コアジサシ)


<p>和名:コアジサシ 学名:<i>Sterna albifrons sinensis</i> 分類:チドリ目 カモメ科</p>	 <p style="text-align: center;">現地撮影</p>
<p>【指定状況】 環境省 RL :絶滅危惧 II 類 沖縄県 RDB:絶滅危惧 II 類</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に 11 地点延べ 17 個体を確認した。 海岸近くで採餌する個体や餌運びをする個体を目撃した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内では青森県以南で繁殖する。県内には夏鳥として渡来する。国外では中国、インド、東南アジア、オーストラリアなどに広く分布する。全長 28cm。頭頂から後頭部は黒色を呈し、体と翼上面は淡灰色で、額、下面、尾羽は白色である。くちばしは黄色で先端が黒色、脚は橙黄色である。海岸、内湾、サンゴ礁、河口、さらに内陸の河川などに生息し、主に小魚や甲殻類を食べる。県内に産する沿岸性アジサシ類の中では最も早く、4 月中旬頃に渡来し繁殖する。砂、貝殻、サンゴ礫の堆積した海岸や植生の貧弱な造成地や海岸埋立地、サンゴ礁原の砂州などで営巣する。1 腹卵数は普通 2~3 個である。抱卵日数は 19~24 日、育雛日数 20~24 日を経て巣立つ。キリッ、キリッと鳴く。 出典 1:「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版(動物編)ー レッドデータおきなわ ー」(2017 年、沖縄県) 2:「改訂版 沖縄の野鳥」(2010 年、沖縄野鳥研究会編) 3:「日本の野鳥 590」(2000 年、真木広造・大西敏一)</p>	

表 7.12.1-42(8) 重要な陸域動物の概要(鳥類：ミサゴ)



<p>和名：ミサゴ 学名：<i>Pandion haliaetus haliaetus</i> 分類：タカ目 ミサゴ科</p>	 <p style="text-align: center;">現地撮影</p>
<p>【指定状況】 環境省 RL：準絶滅危惧 沖縄県 RDB：準絶滅危惧</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で冬季に2地点延べ2個体を確認した。 海岸近くの上空を飛翔する個体を目撃した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内では沖縄を除いてほぼ全国的に繁殖する。県内では越夏個体も見られるが、営巣が確認されておらず、主として冬鳥である。国外ではユーラシア、アフリカ、インドなどに広く分布する。全長雄 54.5cm、雌 63.5cm。翼開長 1 m60cm もある大型のタカ。翼が細長く、下面の白がよく目立つ。上面は暗褐色で尾は短い。海岸付近や内陸の河川、湖沼に生息する。上空をゆっくりと飛びまわり、頻りに停空飛翔(ホバリング)をくり返す。魚食性で、上空から魚を見つけると急降下し、体全体を水面に突っ込んで捕らえる。ピョツ、ピョツ、ピョツと鳴く。 出典 1：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版(動物編)― レッドデータおきなわ ―」(2017年、沖縄県) 2：「改訂版 沖縄の野鳥」(2010年、沖縄野鳥研究会編) 3：「日本の野鳥 590」(2000年、真木広造・大西敏一)</p>	

表 7.12.1-42(9) 重要な陸域動物の概要(昆虫類：サンゴアメンボ)


<p>和名：サンゴアメンボ 学名：<i>Hermatobates schuhi</i> 分類：カメムシ目 サンゴアメンボ科</p>	 <p style="text-align: center;">現地撮影</p>
<p>【指定状況】 環境省 RL：準絶滅危惧 沖縄県 RDB：準絶滅危惧</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で秋季に1地点3個体を確認した。 干潮時に海岸近くの水面で活動する個体を確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内ではトカラ列島の中之島と宝島、奄美大島、沖縄島、渡嘉敷島、久米島、石垣島、西表島に、国外ではオーストラリア区に分布する。体長は 3.4~4.0mm。体はビロード状の黒色で、多数の毛が生えているため、灰黒色に見える。左右の複眼は大きく離れ、胸部がきわめて大きい。無翅型のみが知られている。サンゴ礁など潮間帯に生息する。干潮時に活動し、満潮時は海面下にある岩礁の小孔内で休止する。活動時はカーブを描いて海面を素早く疾走し、その動きは海面ぎりぎりまで飛ぶハエのようである。 出典 1：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版(動物編)― レッドデータおきなわ ―」(2017年、沖縄県) 2：「日本産水生昆虫一科・属・種への検索【第二版】」(2018年、東海大学出版部)</p>	

表 7.12.1-42(10) 重要な陸域動物の概要(昆虫類：サンゴミズギワカメムシ)

<p>和名:サンゴミズギワカメムシ 学名:<i>Salduncula decempunctata</i> 分類:カメムシ目 ミズギワカメムシ科</p>	
<p>【指定状況】 沖縄県 RDB:準絶滅危惧</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に2地点で計12個体を確認した。 干潮時の岩上を移動する成虫と幼虫を確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 トカラ中之島、奄美大島、沖縄島、伊平屋島、久米島、石垣島、西表島、波照間島に分布する。体長は2.5~3.4mm。体背面は黒色~黒褐色で、前翅上に約10個の黄白色紋を持つが、その数や大きさには変異がある。長翅型のみが知られる。サンゴ礁地帯及び岩礁地帯の潮間帯に生息し、干潮時の晴れ間に岩上を断続的に歩き回り、驚かすと跳ね、時に短距離を飛翔する。 出典1:「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版(動物編)― レッドデータおきなわ ―」(2017年、沖縄県) 2:「日本産水生昆虫一科・属・種への検索【第二版】」(2018年、東海大学出版部)</p>	

現地撮影

表 7.12.1-42(11) 重要な陸域動物の概要(昆虫類：ハイイロイボサシガメ)

<p>和名:ハイイロイボサシガメ 学名:<i>Coranus spiniscutis</i> 分類:カメムシ目 サシガメ科</p>	
<p>【指定状況】 環境省 RL:準絶滅危惧</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に1地点2個体、秋季に1地点3個体を確認した。 荒地の地表を移動する成虫を確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内では琉球列島に分布し、トカラ列島(宝島)、奄美大島、加計呂麻島、沖縄本島、久米島から記録がある。国外では中国、東南アジア、インドに分布する。体長8.5~10.5mm。頭部は長卵形で、前胸背とほぼ同じ長さ。触角は比較的短い。常に翅を具える。腹部の色彩は黒褐色から黄褐色まで変異がある。草原から見つかっているが、産地は局限され、個体数も少ない。 出典1:「日本原色カメムシ図鑑 第3巻」(2012年、全国農村教育協会) 2:「Rostria 57号」(2014年、日本半翅類学会)</p>	

現地撮影

表 7.12.1-42(12) 重要な陸域動物の概要(陸生甲殻類：オオナキオカヤドカリ)


<p>和名:オオナキオカヤドカリ 学名:<i>Coenobita brevimanus</i> 分類:十脚目 オカヤドカリ科</p>	 <p style="text-align: center;">現地撮影</p>
<p>【指定状況】 天然記念物:国指定 環境省 RL :準絶滅危惧</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に5地点5個体、種不明の小型オカヤドカリ類として2地点36個体、夏季に3地点3個体、秋季に4地点5個体を確認した。 護岸際の漂着ゴミの下、海岸林縁の地表で確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内では沖縄島以南、宮古諸島・八重山諸島、国外では台湾など、インド洋から太平洋に分布する。前甲長 30mm 程度で、体色は甲が褐色から赤紫色、眼柄は褐色から黒色を呈す。前甲はわずかに盛り上がり、背面に点刻がある。眼柄は円柱状で、他のオカヤドカリ類と区別できる。海岸近くの林に生息する。糞・果実・腐肉などを摂食する。 出典 1:「沖縄海中生物図鑑 第8巻」(1988年、新星図書出版) 2:「沖縄県天然記念物調査シリーズ第43集 オカヤドカリ生息実態調査報告 II」(2006年、沖縄県教育委員会) 3:「ネイチャーウォッチングガイドブック日本の淡水性エビ・カニ日本産淡水性・汽水性甲殻類102種」(2014年、誠文堂新光社)</p>	

表 7.12.1-42(13) 重要な陸域動物の概要(陸生甲殻類：オカヤドカリ)


<p>和名:オカヤドカリ 学名:<i>Coenobita cavipes</i> 分類:十脚目 オカヤドカリ科</p>	 <p style="text-align: center;">現地撮影</p>
<p>【指定状況】 天然記念物:国指定</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に2地点2個体、種不明の小型オカヤドカリ類として2地点36個体、夏季に3地点6個体、秋季に6地点11個体を確認した。 海岸林内の地表、野球場のフェンス沿い、ゴミ集積所周辺で確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内では奄美大島以南、喜界島・沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島・小笠原諸島、国外では台湾など、インド洋から太平洋に分布する。前甲長 20mm 程度で、体色は甲が茶褐色・褐色・暗褐色、眼柄が下部又は全体に黒色を呈す。両鋏脚の指節は白い個体が多く、第2触角基部は橙色から赤褐色が多い。海岸に近い林や砂浜だけでなく、内陸部にまで生息する。糞・果実・腐肉などを摂食する。繁殖期は6~8月でゾエア幼生を海に放出するために内陸部から降海する。 出典 1:「沖縄県天然記念物調査シリーズ第43集 オカヤドカリ生息実態調査報告 II」(2006年、沖縄県教育委員会) 2:「ネイチャーウォッチングガイドブック日本の淡水性エビ・カニ日本産淡水性・汽水性甲殻類102種」(2014年、誠文堂新光社)</p>	

表 7.12.1-42(14) 重要な陸域動物の概要(陸生甲殻類：ムラサキオカヤドカリ)


<p>和名：ムラサキオカヤドカリ 学名：<i>Coenobita purpureus</i> 分類：十脚目 オカヤドカリ科</p>	
<p>【指定状況】 天然記念物：国指定</p>	<p>現地撮影</p>
<p>【確認状況】 現地調査で春季に 5 地点 45 個体以上、種不明の小型オカヤドカリ類として 2 地点 36 個体以上、夏季に 4 地点 15 個体、秋季に 6 地点 43 個体を確認した。 主に砂浜後背や護岸際の石や漂着ゴミの下で確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 神奈川県・三重県・和歌山県・高知県・大分県・宮崎県・鹿児島県以南の南西諸島・伊豆大島・八丈島・小笠原諸島に分布する日本固有種。前甲長24mm程度で、体色は薄青色・青紫色・濃紫色を呈し、小型個体では白色・淡黄色が多い。眼柄下部には黒色部分がない。左側鋏脚の外表面には斜向顆粒列があり、下縁の中央部には凹みがある。海岸に近い林や砂浜に生息する。糞・果実・腐肉などを摂食する。繁殖期は5月下旬～9月中旬で、ゾエア幼生を海に放出するために内陸部から降海する。 出典 1：「沖縄県天然記念物調査シリーズ第 43 集 オカヤドカリ生息実態調査報告 II」(2006 年、沖縄県教育委員会) 2：「ネイチャーウォッチングガイドブック日本の淡水性エビ・カニ日本産淡水性・汽水性甲殻類 102 種」(2014 年、誠文堂新光社)</p>	

表 7.12.1-42(15) 重要な陸域動物の概要(陸生甲殻類：ナキオカヤドカリ)


<p>和名：ナキオカヤドカリ 学名：<i>Coenobita rugosus</i> 分類：十脚目 オカヤドカリ科</p>	
<p>【指定状況】 天然記念物：国指定</p>	<p>現地撮影</p>
<p>【確認状況】 現地調査で春季に 11 地点 151 個体以上、種不明の小型オカヤドカリ類として 2 地点 36 個体以上、夏季に 13 地点 98 個体以上、秋季に 8 地点 61 個体を確認した。 主に砂浜後背や護岸際の石や漂着ゴミの下で確認した。なお、夏季には幼生を海中に放出する行動を確認した。</p>	
<p>【分布・形態・生態など】 国内では神奈川県・和歌山県・高知県・宮崎県・鹿児島県以南の南西諸島・八丈島・小笠原諸島、国外では台湾など、インド洋から太平洋に分布する。前甲長14mm程度で、体色は色彩に富み、茶褐色・灰色・灰緑色・赤褐色・青紫色を呈し、眼柄下部には黒色部分がある。左側鋏脚の外表面には斜向顆粒列があり、下縁の中央部はわずかに丸い。海岸に近い林や砂浜に生息する。糞・果実・腐肉などを摂食する。繁殖期は5月下旬～11月下旬で、ゾエア幼生を海に放出するために内陸部から降海する。 出典 1：「沖縄県天然記念物調査シリーズ第 43 集 オカヤドカリ生息実態調査報告 II」(2006 年、沖縄県教育委員会) 2：「ネイチャーウォッチングガイドブック日本の淡水性エビ・カニ日本産淡水性・汽水性甲殻類 102 種」(2014 年、誠文堂新光社)</p>	

表 7.12.1-42(16) 重要な陸域動物の概要(陸生甲殻類：コムラサキオカヤドカリ)



<p>和名：コムラサキオカヤドカリ 学名：<i>Coenobita violascens</i> 分類：十脚目 オカヤドカリ科</p>	 <p style="text-align: center;">現地撮影</p>
<p>【指定状況】 天然記念物：国指定 環境省 RL：準絶滅危惧 干潟 RDB：準絶滅危惧</p>	
<p>【確認状況】 現地調査で春季に2地点2個体、種不明の小型オカヤドカリ類として2地点36個体、夏季に1地点1個体、秋季に1地点1個体を確認した。 砂浜後背や護岸際の石や漂着ゴミの下で確認した。</p> <p>【分布・形態・生態など】 国内では沖縄島から八重山諸島、国外ではインド洋・太平洋域に分布する。前甲長20mmで、成体は濃い紫色を呈する。左側缺脚の外面に斜向顆粒列がないことと、眼柄の断面が扁平していることが特徴的である。河口部や内湾的環境に多く見られる。産卵期は8月頃である。</p> <p>出典 1：「ネイチャーウォッチングガイドブック日本の淡水性エビ・カニ日本産淡水性・汽水性甲殻類 102種」(2014年、誠文堂新光社) 2：「レッドデータブック 2014 7 その他無脊椎動物(クモ形類・甲殻類等)」(2014年、環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編)</p>	

表 7.12.1-42(17) 重要な陸域動物の概要(陸生甲殻類：イワトビベンケイガニ)

<p>和名：イワトビベンケイガニ 学名：<i>Metasesarma obesum</i> 分類：十脚目 ベンケイガニ科</p>	 <p style="text-align: center;">現地撮影</p>
<p>【指定状況】 沖縄県 RDB：準絶滅危惧</p> <p>【確認状況】 現地調査で春季に4地点7個体、夏季に1地点8個体、秋季に1地点1個体を確認した。 砂浜後背の石や漂着ゴミの下で確認した。</p>	
<p>【分布・生態など】 国内では南西諸島、国外ではインド・西太平洋に広く分布する。最大甲幅24mm、甲羅はやや横に広い四角形で、短毛はなく滑らか。体色は個体差が大きく、白色・淡黄色・濃褐色などで、黄斑や黒斑などの模様がある。やや湿気のある潮上帯の岩の隙間・石や流木の下などに生息する。手を伸ばすと岩から岩へ飛ぶように素早く移動する。</p> <p>出典：「日本産 淡水性 エビ・カニ図鑑」(2019年、緑書房)</p>	

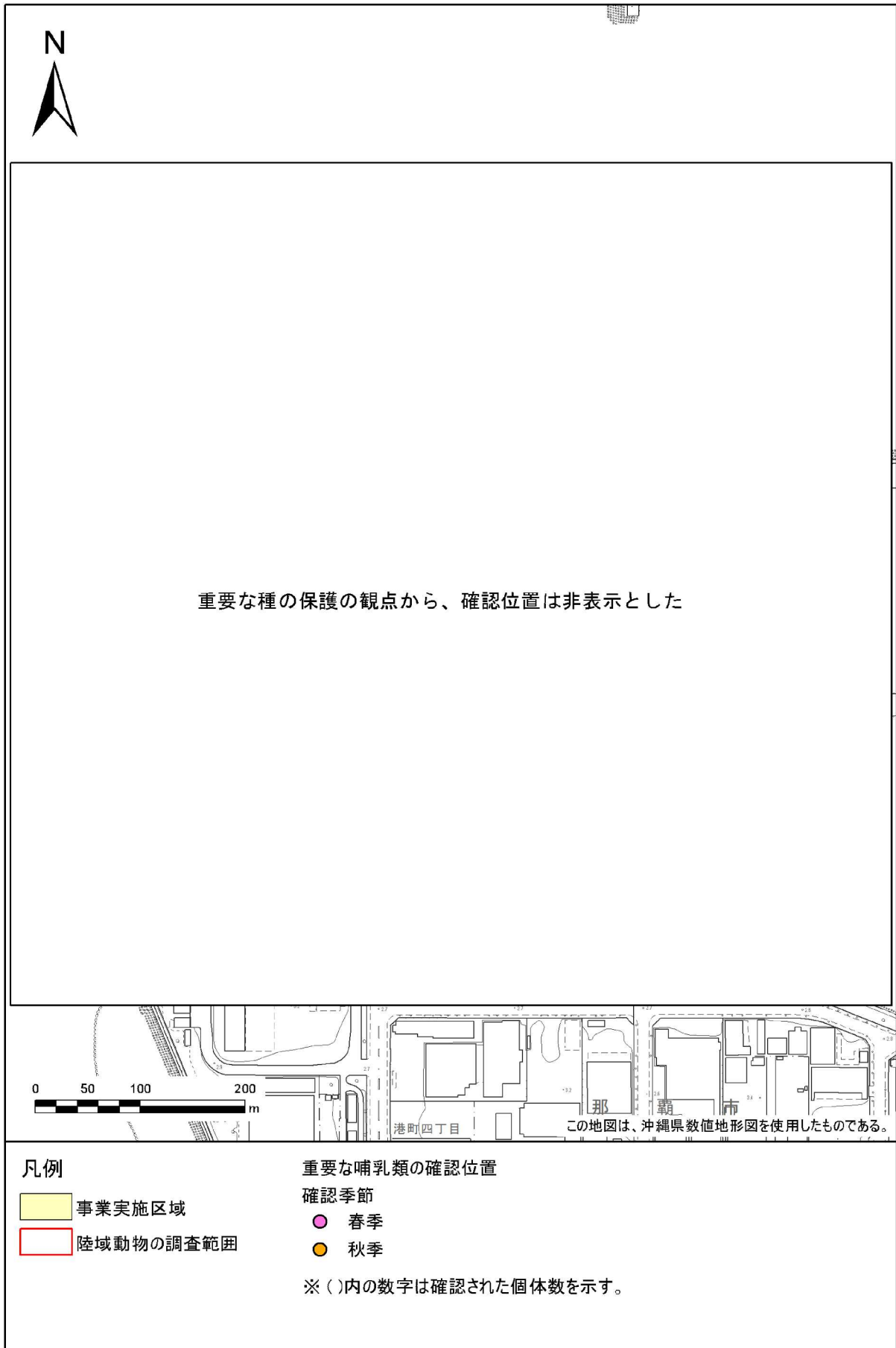


図 7.12.1-9 重要な哺乳類の確認位置



図 7.12.1-10 重要な鳥類の確認位置

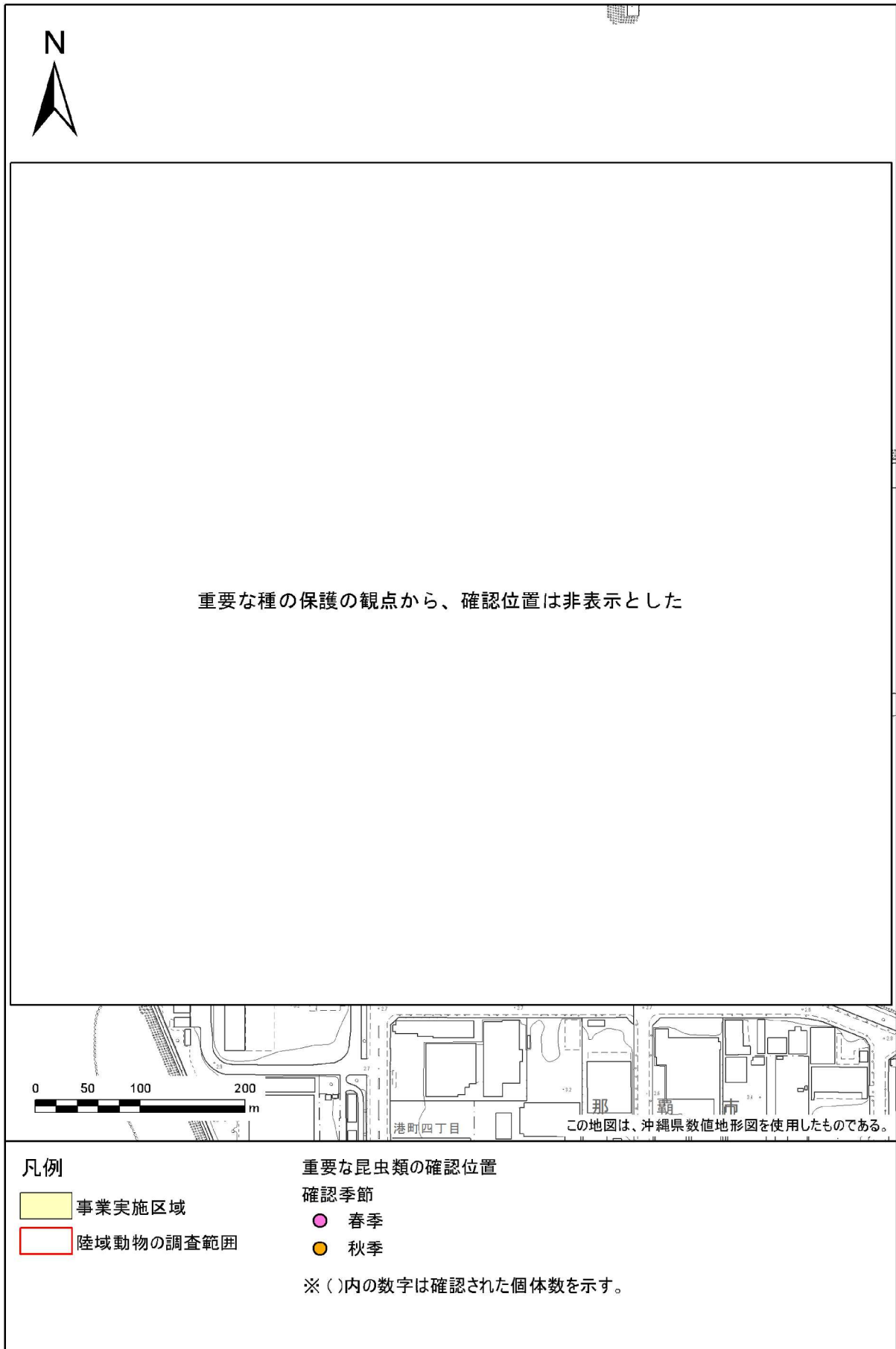


図 7.12.1-11 重要な昆虫類の確認位置

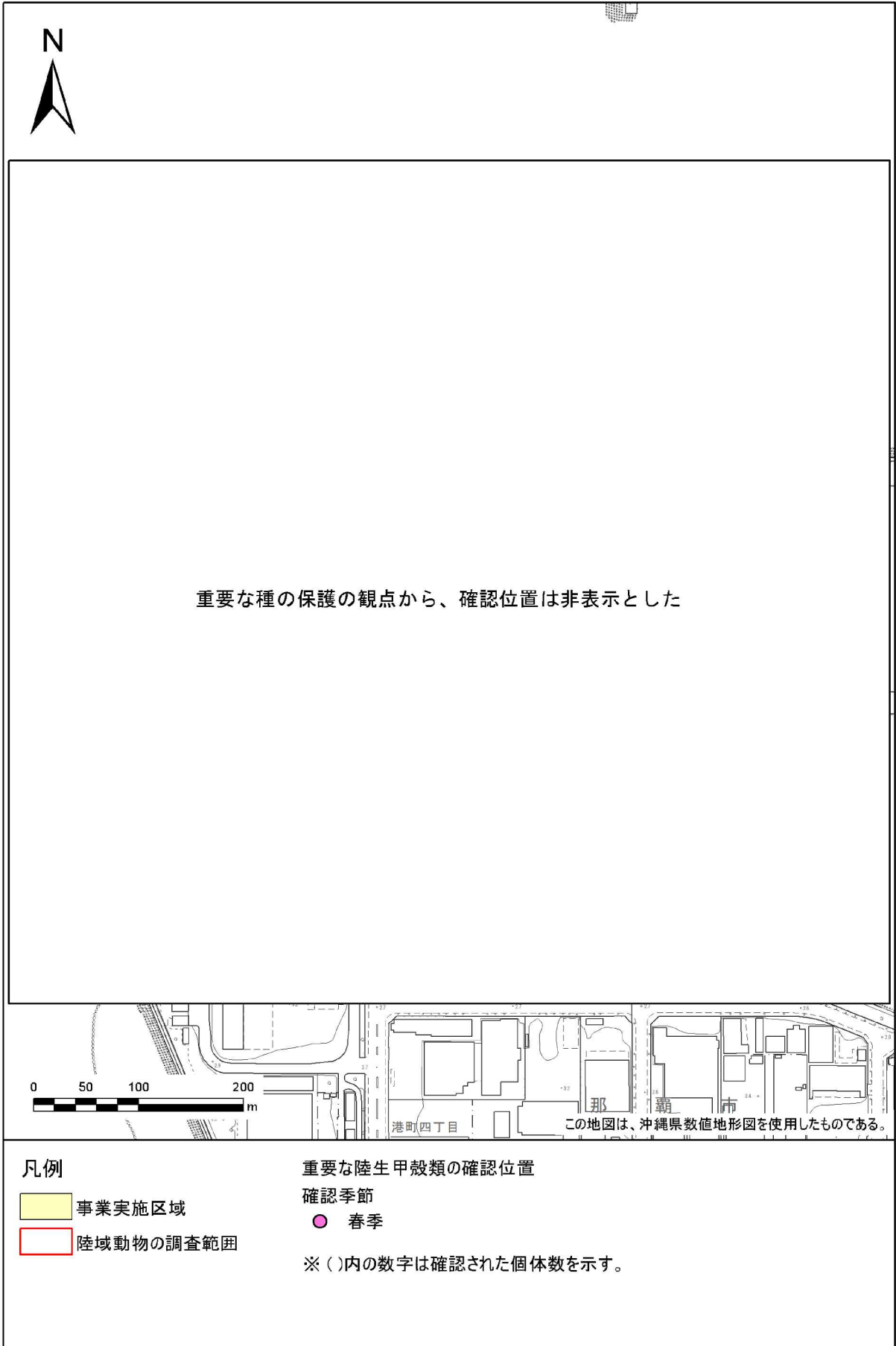


図 7.12.1-12(1) 重要な陸生甲殻類の確認位置(春季)

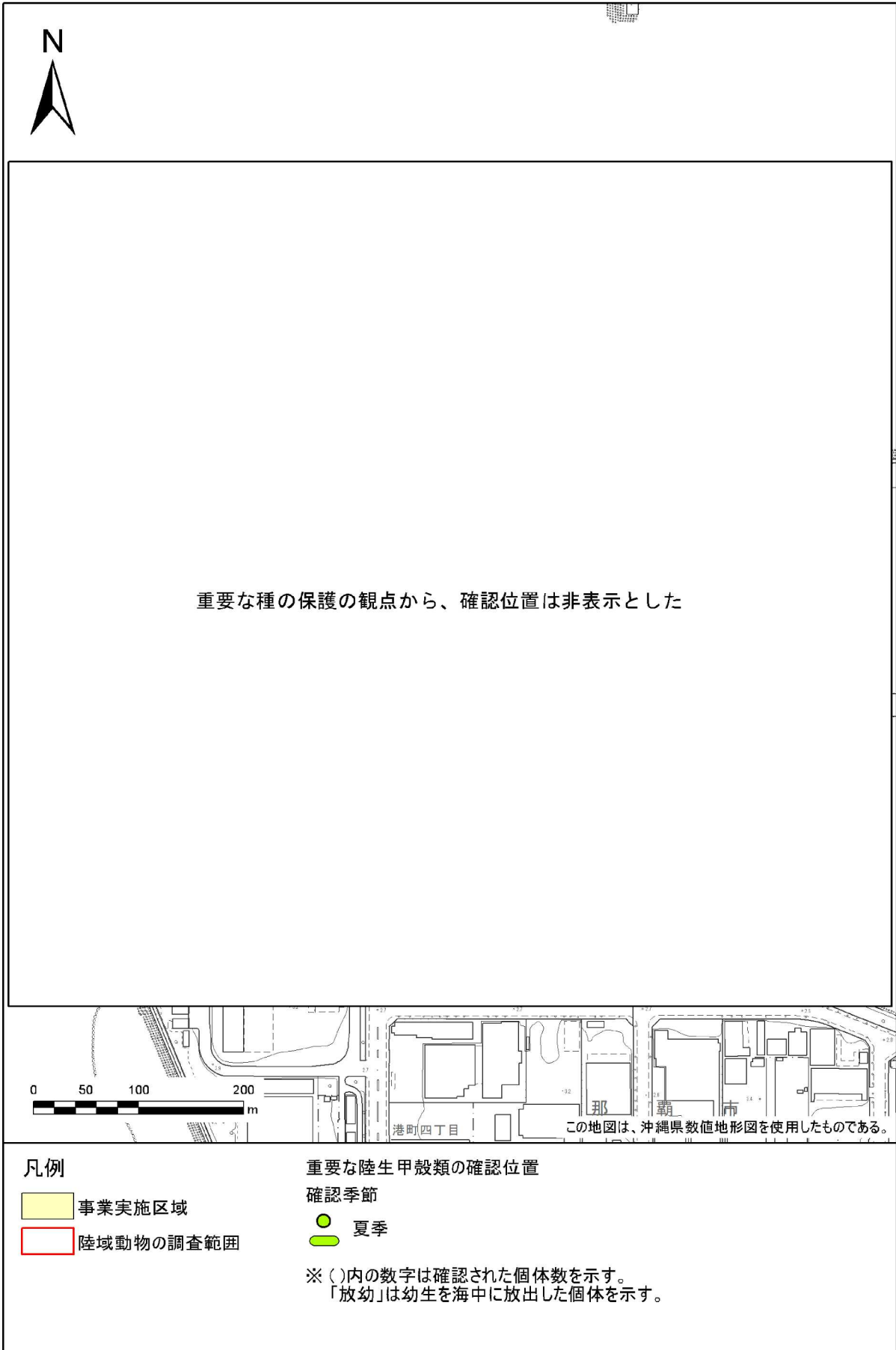


図 7. 12. 1-12 (2) 重要な陸生甲殻類の確認位置 (夏季)



図 7.12.1-12(3) 重要な陸生甲殻類の確認位置(秋季)

3) 指定外来種の状況

① 文献その他の資料調査

文献調査での指定外来種の一覧を表 7.12.1-43 に示す。

文献記録種の中から抽出した結果、2種の鳥類、1種の昆虫類が該当した。なお、哺乳類、爬虫類、両生類、陸生甲殻類、陸産貝類からは抽出されなかった。

表 7.12.1-43 文献調査での指定外来種の一覧

分類群	和名	外来生物法	沖縄県保護条例	生態系被害防止外来種	沖縄県対策外来種
鳥類	シロガシラ			その他の総合対策外来種	対策種
	シマキンパラ				対策種
昆虫類	セイヨウミツバチ				産業管理外来種
合計	3種	0種	0種	1種	3種

② 現地調査

現地調査での指定外来種の一覧を表 7.12.1-44 に示す。

現地確認種の中から抽出した結果、4種の哺乳類、2種の鳥類、1種の両生類、2種の昆虫類、3種の陸産貝類が該当した。なお、爬虫類、陸生甲殻類からは抽出されなかった。

表 7.12.1-44 現地調査での指定外来種の一覧

分類群	和名	外来生物法	沖縄県保護条例	生態系被害防止外来種	沖縄県対策外来種
哺乳類	イエネコ			緊急対策外来種 ^{注1}	重点対策種 ^{注1}
	クマネズミ			緊急対策外来種	対策種
	ドブネズミ ^{注2}			重点対策外来種	対策種
	ハツカネズミ			重点対策外来種	対策種
鳥類	シロガシラ			その他の総合対策外来種	対策種
	シマキンパラ				対策種
両生類	シロアゴガエル	特定外来生物		重点対策外来種	対策種
昆虫類	サカイシロテンハナムグリ			その他の総合対策外来種	対策種
	セイヨウミツバチ				産業管理外来種
陸産貝類	ケショウオカモノアラガイ				対策種
	アフリカマイマイ			重点対策外来種	対策種
	アジアベッコウ				対策種
合計	12種	1種	0種	8種	12種

注1：ノネコとして掲載。

注2：クマネズミ属として確認され、ドブネズミの可能性があるので掲載した。